

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0/A ¥ 1 8 9 0/B ¥ 2 0 9 0/C ¥ 2 2 5 0/D ¥ 2 4 9 0}
(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

www.tambourine-japan.com email: song@tambourine-japan.com

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

クレア地方の音楽 (P48)

[Single CD/ I R E L A N D]

- *DOLORES KEANE:Lion In A Cage ¥150
(大安売り。“Lion In A Cage”{Lion Mixウヴァージョン}, “Heart Like A Wheel”, “Lion In A Cage”{7” Mixウヴァージョン}の3曲収録。1989作。Ringsend Road)

[CD+CD-ROM/ I R E L A N D]

- *AMHRAN IS FICHE DON NOLLAIG ¥4190
(CD と CD-ROM の一枚セット。CDプレイヤーにかければ CD で、パソコンに入れば CD-ROM。CD はアムランの Mairead Ni Mhaonaigh とシェイマス・ヘグリーの妹の Meabh Ni Bheaglaoich と Liadan の Sile Denvir の三人の女性シンガーによる 21 曲収録のアムラントの伝統的クリスマス・ソング集。ゲール語地域の異なる三人の歌姫の唄は、全曲ギターのための伴奏付きで、全曲それぞれの地域のゲール語。シンキングはシングルそのもの。それ故にそれぞれの歌姫のシンキングの味わいがストレートに味わえる。CD-ROM はゲール語の歌詞{印刷可}、英語の歌詞{印刷可}、カラオケでの唄のレッスンなど。尚、視聴した盤は CDプレイヤーでは最後の数曲で各 1、2 回音飛びしました。パソコンでは音飛びはありませんでした。CDプレイヤーで聴くことを前提にしていけないのかも。2009 作。Fios Feasa)
- *AMHRAN IS FICHE EILE ¥4190
(上記 CD と CD-ROM の一枚セットのシリーズの前の作品。Eilis Ni Chinneide と Aoife Ni Fhearraigh と Caitriona Ni Cheannabhain の三人の女性シンガーによる 21 曲収録のアムラントの伝統歌集。ゲール語地域の異なる三人の歌姫の唄はそれぞれの地域のゲール語。2007 作。Fios Feasa)

[CD+BOOK/ I R E L A N D]

- *PETER CONLON:The Genius Of ¥2850
(アムラントからニューヨークに移住し、1917 年のレコーディング・デビューを皮切りにアメリカで活躍したメロディオン奏者 Peter J Conlon{1885-1954}の演奏集の 2 枚組 CD と彼の人生やレコーディング記録などをまとめた本{P44}のセット。彼のエキサイティングな演奏は彼の演奏に憧れる演奏家を生んだという。SP 盤からの全 47トラック。2012 作。OTR1040TR105)

[CD/ I R E L A N D系]

デジパック・タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。

- *JOHN DOYLE, JOHN McCUSKER, MIKE McGOLDRICK
:The Wishing Tree

(7/8 入荷予定。コンサート会場で販売されている John Doyle, John McCusker, Mike McGoldrick の精鋭トリオによる新作です。大いに期待。以下曲目リストです。2017 作。Under The Sky)

1. The Wishing Tree, The Retirement, Dearne Valley
2. The Bonny Light Horseman
3. Bo Mhin Na Toitean, John Brosnan' s, Bogha Bride Willie
Bucach MacLeod Of Stornoway
4. Billy O' Shea, The Wind That Shakes, The Barley, Trip To Herve' s
5. Planxty Dermot Grogan
6. Burke & Hare
7. Look In The Press , Poigini Na Greine, Buidhe Arda Dearga
8. The Wicked Belfast Man
9. Keane O' Hara, Rip The Calico, Coming Of Age, My Maryanne,
Tribute To Larry Reynolds
10. Banks of the Bann, We' re A Case The Bunch Of Us

*CORMAC BEGLEY: Cormac Begley G

(7/10 入荷予定。Cormac のサイトで二曲のサンプルを視聴しただけでも、本作の圧倒感がガンガン伝わってくる。2017 作。Cormac Begley。以下、参考までに CD 評をいくつかご紹介を。

'Nothing short of spectacular' (BBC Radio Northern Ireland)
/ 5 Star Review - 'An earthy delight' (Irish Times) /
'Thoroughly splendid virtuoso concertina playing'
(Folkwords) /5 Star Review - 'This is a superb solo artiste
with feeling, amazing timings, drama, humour and obvious
dedication to his craft.' (Folking.com)

*FLORIANE BLANCKE: Kaleidoscope G

(Dermot Byrne との二人名義のアルバムを出しているフランス人ハーブ奏者でシンガーの Floriane Blancke のソロ。彼女がアイルランドに越してきたのが 2006 年。Florian の小気味よいアイリッシュなハーブに Brendan O' Regan のブズーキ、Joanie Madden のホイッスル、Jimmy Higgins のバウロンなどが重なって楽しい自作曲の "Trip To Achill" [2006 年に初めてアキル島に旅したときの思い出を曲にしたジグ] から始まる本作は、特に Dermot との逢いは大きいだろうが、今のアイリッシュ最前線の音楽家と共演&交流する中で育まれたハーブをフィーチャーしたアイリッシュ・セッションな香りと彩りのある音楽と唄。アイリッシュな香りを放ちつつ、フランス人的な優雅さのようなものが常に香っていて素敵。また二曲目のアルスターの伝統歌 {ゲール語のラヴソング} も素敵。かと思えば、Floriane のフィドル、Dermot のアコ、Jimmy Higgins の三人によるばっちりのリール曲メドレー。「万華鏡」のタイトルがよく似合うアイリッシュの多彩な音楽が美しく散りばめられている。他の共演者は Garry O' Briain, Tim Edey, Trevor Hutchinson, Kevin Griffin, Seamus McGuire, Claire Egan。2017 作。Floriane Blancke)

*KITTY DONOHUE: The Irishman' s Daughter B

(本作は、家族がアイルランド移民で米国育ちの Kitty Donohue が自身のルーツに思いを馳せて制作した「わが心のアイルランド」的な

アイリッシュ。曲目は“Lark In The Morning”などの伝統歌と自作曲とが半々で、自作曲は歌詞も音楽{使用楽器は基本的にアイルランドの各種民俗楽器で、Kitty 自身シタールを演奏し、リルティングもやってのけている}もアイリッシュの空気感に充ちていて、通してたおやかに「わが心の」アイリッシュっぽい。そうした音楽は、女性的な繊細で美しい、どこことなく清々しいアイリッシュ風シンギング&音楽として結実している。何やら Kitty の家で彼女の思い出のアルバムを一枚一枚見ているような、どの曲も「思い出」でキラキラしている。(ゲスト:Cathie Ryan。2017 作。Roheen)

*BRENDA CASTLES:Indeedin You Needn't Bother B
(カウンティ・ミースの伝統音楽一家で生まれ育ったというコンサーティーナ奏者の Brenda のソロ。「恵まれた音楽環境の上に師匠が Micheal O Raghallaigh とあれば」と期待して聴き始めるや、すっかり彼女のコンサーティーナ・マジックに有頂天。テクニックだけを磨いただけではない、アイリッシュ・ダンス音楽の楽しさを体で知っている演奏家ならではのリズム感豊かで、表情豊かなダンス曲を流れるように演奏する。コンサーティーナの演奏で、これだけ音楽に表情が感じられる音楽は珍しい。一曲一曲に風景が思い浮かぶような演奏だ。オール・アイルランド・チャンピオンだそうだが、すんなり納得。Eoghan Scott{ギター}, Paul Browne{ギター}, Tony Byrne{ギター}, Seana Davey{ハープ}, Tony Quinn{ハープ}。2016 作。Brenda Castle)

*SHARON SHANNON:Sacred Earth B
(2007 年の“Renegade”以来の付き合いのアフリカン・スタイルの英国人ギタリストの Justin Adams を共同プロデューサーに迎えて制作された S. Shannon の新作は、「ここまでやるの?!」と、西&東アフリカ音楽っぽいのもロックっぽいのもザディコっぽいアコの演奏なんかを聴いて、つい思ってしまうが、よくよく聴くと、アコが飛び切りの雑多な音色とリズムでアイリッシュしているのが分かる。音楽は楽しまなきゃ損。2017 作。Celtic Connections)

*MOYA BRENNAN:Heart Strings B
(Clannad の Moya の本作は Clannad 的優美さや夢幻さが漂うケルティック・アルバム。Moya のもとに集まったケルトの音楽家は、Fionan De Barra{ギター}, Cormac De Barra{ハープ}, Paul Byrne{ハープ、ドラム}, Eamonn Galldubh, Sinead Madden{フイドル}, Sam Jackson{キーボード}, Yoshinobu Izumi{ベース}の 7 名。全 14 トラック。2008 作。オランダ MW)

*AMY McALLISTER:String On String B
(トラッド&フォーク・タイプのアイリッシュ・シンガーとしてもハープ奏者としても才能のある北アイルランドのアントリムのアイリッシュ・ハープ奏者でシンガーの Amy 姫のデビュー・アルバム。シンガーとしては Cara Dillon 風に魅惑な上に、ハープ奏者としてはハープの硬質の音色が冴えた優美で気品あるハープ・サウンドを見事に爪弾き出して、耳にすこぶる新鮮。ハープ・ソロでも相当なアルバムが出来そうだが、本作は彼女のシンギングを中心にした構成で、ハープとギターを中心にした伴奏で、Cara Dillon や Planxty などでお馴染みの“P Stands For Paddy, I Suppose”や

“Bonny Blue-Eyed Nancy”などのアイリッシュや胸キュンな自作曲をケルティックに？素敵にうたう。ハーブをフィーチャーした曲が四曲ある。三つのタイプのアイリッシュと個人的に大好きな Catriona McKay 作の“The Swan LK243”を見事に演奏しきっている。2017 作。Amy McAllister)

*DAMIEN McGREEHAN: The Tin Fiddle A

(ドニゴールのフィドル・トリオ“Fidil”のメンバーの Damien の初ソロ。本作を聴いて、先ず器の大きな天才フィドラーだと思った。半数を占めるドニゴールの伝統音楽を演奏すれば、その心まで表現出来てなかつオリジナル曲では、フィドルを打楽器としても操って、創造性豊かなフィドル・ミュージックを演奏し、スコットランドやジブシー音楽までも絶妙にやってのけてしまう。弓先に込めたデリカシーは Martin Hayes 並み。他のフィドラーとは比較出来ない精神性の高さと演奏技術の高さと創作力の豊かさを見せてつけている。本作は Peadar McGeehan {1915-2013} に捧げられている。2016 作。Damien McGeehan)

*NOEL HILL: Live In New York B

(両親も祖父母もコンサーティーナ奏者だったというアイルランド随一のコンサーティーナ奏者の Noel Hill の新作は、ニューヨークでのライブ。レパートリーの引き出しを多く持つ Noel の演奏は、時代も曲調も様々で、様々な表情のクレアを中心にしたアイリッシュ・ミュージックを楽しませ、舌鼓を打たせる。音の魔術師と思ってしまうほど。演奏中、観客が身じろぎもせずに聴き入っている空気感が、Noel の神がかった演奏とともに伝わってくる。2016 作。Raelach)

*FASTA: Un Canadien Errant B

(カナダの“Traditional Singer of the Year”賞受賞のケベックの女性トラッド・シンガーでフィドラーの Sophie Lavoie とケベックのギタリストの Andre Marchand とコネマラ出身のアイルランド人イリアン・パイプス & バンジョー奏者の Fiachra O' Regan のトリオ。ケベックのトラッドとアイリッシュが混ざり合った音楽の意外に新鮮で爽快なこと！ Sophie のシンギングとフィドルはケベック・トラッドの伝統の味わいを披露しつつも、音楽はアイリッシュのノリを混ぜ合わせていて、例えば、100 年、200 年前、カナダに移り住んだフランス & アイルランド移民が互いの音楽を持ち寄って、楽しんで創り上げた音楽のような、凄く魅力的で心に響いて、楽しめる音楽。Sophie さん、大好きな“Un Canadien Errant”をうたってくれてありがとう！2016 作。Fasta)

*TERENCE WINCH, MICHAEL WINCH AND JESSE WINCH

: This Day Too B

(副題“Music From Irish America”。Terence Winch と Jesse Winch は、1977 年に Green Linnet から鮮烈アルバム・デビューした Celtic Thunder の創設者でオリジナル・メンバー。本作は Terence の息子でアイリッシュ・フィドラーの Michael を加えたトリオとアイリッシュ仲間達 {Zan McLeod, Brendan Mulvihill 他} とによる奇跡のアイリッシュ・ミュージック。アットホームなセッションとして楽しむ

る上に、ウィンチ家が受け継いできたアイリッシュ・ミュージックの味わいも音楽やシンギングから醸し出されていて、味わいが深い。また、Celtic Thunder のメンバーでヴォーカルだった Nita Conley Korn と Nita の娘の Eileen Estes の優しいシンギングが花を添えている。2017 作。Celtic Thunder Music)

*ZOE CONWAY AND JOHN McINTYRE:Live In Concert B
(屈指のフィドル奏者の Zoe Conway と Zoe のご主人でギター奏者の John McIntyre による本ライブ盤は、優れたアイルランド音楽のとびっきりなライブを見せられた気分。本作は 2016 年に夫妻が行ったドイツ・ツアー音源からの全 13 トラックだが、様々なリズムと色々なトーンで魅了する Zoe のアイリッシュ・フィドルは正に絶品で、加えて、Glannad おなじみの“Dulaman”など三曲でヴォーカルを披露する Zoe の清々しくも哀調を帯びたシンギングも、これまた絶品。ご主人の John のギターは縁の下の力持ち的にあの手この手で支えてお見事。2016 作。Zoe Conway&John McIntyre)

*JOHN & MAGGIE CARTY:Settle Out Of Court B
(John Carty {フィドル、バンジョー} が John の娘の Maggie Carty {バンジョー、キーボード、ヴォーカル} に最初に教えたというバンジョーの曲“Paddy Hayey”で幕開けする父娘の本作は、フィドルとバンジョーの演奏で、時と場所を超えてアイリッシュ・ミュージックを旅する気分。場所はロンドンだったり、1920 年代の米国だったりもする。娘の Maggie が 4 曲でうたっている。アイルランド民謡が 3 曲とイエーツ詩の「サリーガーデン」。野の花的な素朴なシンギングが心にスツと響く。アイリッシュの酸いも甘いも知った人、ニコニコ保証。w. Shane McGowan {ギター}, Donal Lunny {ブラス、ギター、バウロ}。2016 作。Racket)

*MICHEAL DARBY O FATHARTA:An Rithim Reidh B
(コネマラのメロディオン奏者の Micheal Darby のおそらく二枚目。アルバム・タイトルは「安定したリズム」というような意味らしい。これはずばり中身を言い表している！と思ってしまうほど、彼の演奏は繰り返しのリズムに安定感が感じられて、ウトウトしてしまうように心地よい。選曲はオール・アイルランド的範囲だが、たいていはその昔聴いたアルバムからの好みの曲を「ふふふ」と悦に浸って演奏しているかのよう。w. Donogh Hennessy {Lunasa}, Muireann Nic Amhlaoi bh {Danu}, Trevor Hutchinson {Lunasa}, Dessie Kellehe。2017 作。Micheal Darby O Fatharta)

*AIDAN COFFEY WITH FRANKIE GAVIN, ALEC FINN & COLM MURPHY:The Corner House Set B
(「デ・ダナンより良い！」と評判。シュリーヴ・ルークラの音楽を中心にした選曲の良さもさることながら、アコとブズーキの締まったリズムがベースになっていて、Frankie のフィドルも締まって、フィドルの良さが凝縮した感じだ。お年寄りばかりなのに、音楽は青春真っ只中。2016 作。Riverboat)

*TONY REIDY:Round Tower Blues B
(世の中可笑しなおっさん SSW がいるもんだ。バンジョー、マンドリン、ギターを取っ替え引き替え、時に多重録音をしてうたう、この

Tony のうたは何ともほっこり。Michael Hurley に似た雰囲気もあることはあるが、このおっさん Tony は物言わぬものに語りかけるように波静かで穏やかで、その眼差しは優しい。唄は飄々感はあるものの Johnny Duhan のような唄の響きだから、唄それ自体が心地よい。2015 作。Tony Reidy)

*CELTIC FIDDLE FESTIVAL:Live In Brittany B
(2013 年 1 月にブルターニュで行われた結成 20 周年記念のライブ。Kevin Burke, Kornog の Christian Lemaitre {ブルターニュ}、La Bottine Souriante の Andre Brunet {ケベック} のフィドル・トリオのブルターニュのギター奏者 Nicolas Quemener を加えた本作はブルターニュ色と東欧色が入り交じったケルティック・フィドルで幕開けし、あの手この手、趣向を凝らしたブルターニュ〜アイルランド〜ケベックのケルティック・フィドルを堪能させる。形態は違うが、ある種 Battlefield のように音楽で泣き笑いし、気分良く踊らされもする。Loftus)

*PAUL MORAN:Moran's Fancy B
(Fergal Scahill との二人組で知られるゴールウェイのパブ「クレインバー」を拠点に活動するトラッド・シンガーで、ハーモニカ奏者でダンサーの Paul Moran の多才で多彩な魅力の詰まったソロ・アルバム。Frank Harte を敬愛するという彼のリルティングを含むシンギングは、柔和なシンギングで魅力的だし、自身のハーモニカと Fergal のフィドル又はギター又はパウロンのデュエットはカッコいいし、ダンスのステップまでやってのけてしまうのだから、これはマジックとしか思えない楽しさ。お楽しみ満載の全 15 トラック。2016 作。Paul Moran)

*CRISTY MOORE:Lily A
(Christy Moore の新作は、Christy の友達シンガー作曲の思い出の唄を、その唄をギターの弾き語りを中心に、その思い出を振り返りながら、懐かしみ、楽しみ、そして噛みしめるようにうたったもの。ある種子守歌のようにも聞こえる穏やかな唄の数々だが、耳を澄ませば、シンギングもサウンドも表情がすこぶる豊か。静かに耳を傾けたい 71 歳の Christy Moore 翁の天下一品の名品。w. Declan Sinnott, Jimmy Higgins, Seamie O' Dowd, Mairtin O' Connor, Cathal Heyden, etc. 2016 作。Columbia)

*TOMMY PEOPLES:Recorded At Fiddle's Hearth C
(呼吸困難の症状で現在酸素吸入器が欠かせない生活を強いられている Tommy Peoples の 2005 年のライブ。場所は米国インディアナの "Fiddle Hearth" というパブ。2005 年といえば "Waiting For A Call" の二年後。実演で腕に染み込ませた豊富なレパートリーの引き出しの中から、思いつくままに即座に曲を選んで演奏しているかのような音楽の自由さと孤高さは、まるで草原を自由に飛びまわる野鳥のよう。全 35 曲の 16 トラック。Tommy Peoples 氏のサイン入。2016 作。Tommy Peoples)

*SEAMUS SANDS:Across Bridge B
("Traditional Fiddle Playing" の副題が味わいを増す何とも生真面目で、美しい伝統的なフィドル音楽なのだろう。伝統一家の物語

は祖父母の代から始まる。Seamus は一家の暮らしの中で親しんできた思い出の音楽 1 曲 1 曲を、まるで 1 曲 1 曲を誰かに捧げるかのように奏でている。まるで家族以外に影響を受けた演奏家として、Paddy Canny, Paddy Carty, Ben Lennon, Junior Crehan 等などの名を上げている。自然なリフト感のあるリラックスした演奏は彼らの美点を受け継ぐものだろう。“A superb album”とは“BBC Radio Ulster”。2016 作。Seamus Sands)

*PATSY O CEANNABHAIN: Fear Muinte Manla C

(コネマラの Patsy は他のシャン・ノース・シンガーから敬愛されるシャン・ノース・シンガーの中のシンガー。本作は全て無伴奏シンギングだが、清澄なシンギングの数々は見事としか言いようがない。ラーサリーナでお馴染みの“Bean Phaidin”をラーサリーナのシンギングと聴き比べてみるのも楽しい。2008 作。Clo Iar-Chonnachta)

*BUA: An Spealadoir A

(米国の大型アイリッシュ・バンド。ゲーリック・シンガーの Brian O hAirt のシンギングはヴォイス・コントロールが見事で、特に静寂な味わいのシンギングはダントツに素晴らしい。加えて、フルート、フィドル、ブズーキ、イリアンパイプス、ギター、ホイッスル、バウロン、ギターなどによるアイリッシュは天下一品。ゲスト: Deirdre Scanlan {Solas}。2008 作。Mad River)

*THE GLOAMING: 2 B

(Martin Hayes, Dennis Cahill, Ialar O Lionaird, Caoimhin O Raghallaigh, Thomas Barlett から成るスーパー・アイリッシュ・グループの Gloaming の二枚目。本作は Martin Hayes のアイリッシュの格調版というか、Martin の音楽の揺らぎのあるアイリッシュ・フィドルの高揚感をカラフルに彩ることで、さらに追求した音楽。基本は Martin が奏で続けるアイリッシュ・ダンスなリズムの心地よい波のような音楽。その波のような音楽は、時にハーモナイズして、この上なく心地よい。2016 作。Real World)

*RUNA: Live A

(米国人アイルランド人混成のアイリッシュ系バンド、Runa の待望の五枚目は、ライブ。メンバーは変わらず Shannon Lambert-Ryan {ヴォーカル、パーカッション}, Fionan de Barra {ギター、ヴォーカル、ベース他}, Cheryl Prashker {パーカッション}, Dave Curley {マンドリン、ヴォーカル、パーカッション}, Maggie Estes White {フィドル、マンドリン} の二姫三太郎五名。本ライブでは、彼らの昇り竜の勢いに溢れていて、天才的レベルの Shannon の最高のシンギング共々、音楽が輝いている。彼らのアイリッシュは雑食性があって、その雑食感が彼らの独自性を生み、音楽のパワーの源にもなっている。すべてがプロ中のプロの音楽パフォーマンスを誇っている。今、最も勢いのあるアイリッシュ系バンド。2016 作。Runa Music)

*MARIE AGUS SEAMUS BEGLEY: Plancstai Bhaile na bPoc B

(Maire & Seamus Begley の兄妹 {姉弟?} による 1989 年のアルバムが CD 復刻。Maire & Seamus のデュエットのあるが、大半は Seamus Begley のゲーリック・シンギングとアコーディオンの演奏を中心

にした構成で、今と変わらない滋味豊かな Seamus のシンギングとダンスの空気いっぱいのアコの演奏が楽しめる。ゲスト: Steve Cooney. 1989/2016 作。Gael Linn)

*SHARON SHANNON: The Diamond Series Box Set ¥2890

(クリスマス・プレゼント用に製作された“Sharon Shannon”, “Out The Gap”, “Each Little Thing” 3 枚組ボックス・セット。2007 作。Daisy)

*SHARON SHANNON: Spellbound a

(未発表音源 6 曲を含む 21 曲入編集 CD。98 作。Grapevine)

*FOUR MEN & A DOG: And The Band Played On C

(Cathal Hayden {フィドル}, Stephen Hayden {フィドル, バンジョー}, Gino Lupari {バウロン, ヴォーカル}, Kevin Doherty {ギター, ヴォーカル}, Donal Murphy {アコ} というラインナップの Four Men の結成 25 周年記念盤。記念盤ということで気合い十分の彼ら本来の怒濤のというか、エネルギー溢るアイリッシュを堪能させる一方で、これも記念盤ということで、ヴォーカルの Kevin Doherty の趣味 {The Band の大ファン} の SSW/ルーツロック {The Band の “Shapes I’m In” をやっています!} も加わって、アイリッシュの嵐の中に米国音楽を紛れ込ませる構成。アイリッシュでも、米国ロックでも、ルーツ志向の太っ腹で醍醐味のある土臭い音楽で圧倒する。2016 作。HOOK)

*FROMSEIER ROSE: Contradiction B

(スコットランドやアイルランドのフィドル音楽に影響を受けたという女性フィドラーの Fromseier Rose と米国人ピアニストの Michael Rose の二人組。Michael は縁の下の力持ちというか、脇役的立場で、主にアイルランドとスコットランドの曲を Fromseier は、優美に晴れやかに演奏する。女性的というか、ヨーロッパ的というかトラッド的な土臭さが薄いのが、清々しい。そんな中、アイリッシュ・シンガーの Niamh Parsons が三曲で、見事なシンギングを披露し、釘付けにする。限定再入荷。Fromseier Rose)

*JOSIE NUGENT: Modal Citizen B

(Mary & Josie Nugent そして Josie Nugent & Brian Stafford の二人組で素晴らしいアルバムを発表している屈指のクレア・スタイルの女性フィドラー Josie Nugent のソロ。そのスタイルをキープしつつオリジナルなフィドル音楽を目指した新作。w. Brian Stafford, Mary Nugent, Nigel & Dianne Boullier, Geordie McAdam, Alan Burke, Sean O’Donnell, Seamus O’Kane, Mark Wilson. 2016 作。Josie Nugent)

*OISIN Mac DIARMADA WITH SAMANTHA HARVEY
: The Green Branch B

(Teada のメンバーでスライゴのフィドル奏者の Oisín がカリフォルニア出身のステップダンサーでピアノ奏者の Samantha Harvey をパートナーに迎えて制作されたアルバム。Samantha は現在スライゴ暮らしというから、おそらく二人は恋仲なのだろうと、想像したくなるほど、ここでの Oisín のフィドルは思いやりがあって優しく、輝いている。曲目は Michael Coleman や Charlie Lennon やオニール本やクレアの古き良き、そして Oisín の思い入れのある

アイリッシュで、Samantha のダンスのテンポをキープした軽やかなピアノが功を奏して、Oisín のフィドルは+αの音色を放っていて素晴らしい。レベルは格段に違っているけど、二人の演奏は美しく響き合っている。輝石の一枚。2015 作。Geol Productions)

*FRANKIE GAVIN, MALACHY BOURKE & BRIAN BOURKE

:The Master's Return - A Tribute To Paddy Killoran B
(De Danann の Frankie Gavin{フィドル}と F. Gavin の愛弟子、Malachy Bourke{フィドル}と Brian Bourke{ハープ}親子のトリオによる伝説のスライゴー・フィドラーの Paddy Killoran{1904-1965}のレパートリーをフィーチャーした勢いあるアイリッシュ・フィドル・ミュージック。Malachy のフィドル自体がパワフルだが、これにスライゴー特有のアップテンポのダンス曲に加えて、まるで Frankie と Malachy が師弟対決し合うかのような激しいフィドル合戦を繰り広げるのだから、熱くならずにはいられない。全 13 トラック。2015 作。Ergodos)

*McDONNELL TRIO:It's Long Way To Tipperary G

(フランス在住の Michael{ヴォーカル、マンドリン、バンジョー、ギター}、Simon{ヴォーカル、ギター、ハープ、ホイッスル他}、Kevin McDonnell{ヴォーカル、アコ}のアイリッシュファミリーグループ"McDonnell Trio"による英・独・仏でうたわれた第一次大戦時の曲 13 曲。60 年代風のオールド・フックなヴォーカル・トリオ・スタイルのアイリッシュ・フォークで、朗々としたソングやコーラスで戦時の唄物語の世界へと誘う。Tipp1418)

*MAIRE NI CHATHASAIGH & CHRIS NEWMAN:Christmas Lights G

(副題"A Selection Of Carols from Chris Newman & Maire Ni Chathasaigh"。アイルランドを代表するアイリッシュ・ハープ奏者の Maire とご主人でギター奏者の Chris のお二人によるクリスマス・アルバム。Maire&Chris の二人は三人の音楽仲間、Nollaig Casey{Maire の妹。フィドル}、Maggie Boyle{フルート}、Roy Whyke{ドラムス}を迎えて、まるで自宅でクリスマス・コンサートをしているかのように暖かでハッピーなクリスマス・アルバム。ハープとギター&マンドリンの音色が輝いて聞こえる。全 16 曲。2013 作。Old Bridge Music)

*THE GREAT DANES:In Ireland G

(GIRO の Anders Trabjerg{アコ}と Jonas Fromseier{バンジョー}の二人のデンマーク人アイリッシュ演奏家による本作は、古いスタイルのアイリッシュ・ミュージック。このお二人さん、「アイルランド人以上にアイルランド人っぽいんじゃないの」と思ってしまうくらい、古いアイリッシュの面白さや楽しさが玉手箱のように音になって飛び出してくる。これはまるで魔法の音楽。二人が外人なのも音楽作りに良い影響をもたらしているのだろう。古いアイリッシュの特徴を外人目線の「面白い」感覚でとらえ、その部分を楽しんで演奏する…。その結果のまるで古いアイリッシュのつぼを得た演奏に、これまた心は笑顔笑顔。忘れた頃に聞こえてくるボーンズのおどけた音も楽しい。アイルランドの爺さん婆さんは泣き笑い必至。ゲスト:Johnny"Ringo"McDonagh。2008 作。Great Danes)

- *LORCAN MacMATHUNA:The Arrows that Murder Sleep B
 (シャンノース・シンギングの美を古代アイルランドの文芸に求め、独自のシンギングの世界を追究する Lorcan Mac Mathuna の、早くも新作。彼の作品を批評するのは失礼と思えるほど、彼の作品は彼の美意識で貫かれていて、Iarla O Lionaird でさえ、影が薄く感じられるほど孤高。本作は前作での共演者だった Daire Bracken{フイドル}に加え、Altan の Martin Tourish{アコーディオン}と Riverdance の Eoghan Neff{フイドル}と即興ジャズの Sean Mac Erlaine{木管楽器}が演奏を担当。2015 作。LMM)
- *DAIRE BRACKEN & LORCAN MacMATHUNA:Preab Meadar B
 (どの時代にも鬼才で奇才のあるアーティストがいるが、主にゲール語でうたう Lorcan は、アイルランドの伝承歌の持つ魂というか、大げさに言えば「言霊」をシンギングやリリィングの内に強く感じさせる。本作は特に 600 年から 1600 年のゲール語の詩を源泉とした自作曲とその時代の詩に曲を付けたもので、Lorcan のアイルッシュ・ケルトな芳香を放つシンギングは過去に生きた人びとの魂の歌声にも聞こえる。そんな鬼才のシンギングと共演するフイドル奏者の Daire{Slide, Danu}の演奏は唄の伴奏を超えた即興的演奏で、響き合っていて、感動的。2014 作。DBLM01)
- *LINDSAY STRAW:My Mind From Love Being Free A
 (ボストンのアイリッシュ・バンドの Ivy Leaf のメンバーで、シンガーでギター&ブズーキ奏者の Lindsay Straw 嬢のソロ。本作はこの約 10 年の間に彼女が熱中して来た英国とアイルランドの伝統歌をギターやブズーキの弾き語りでうたったもので、ブリティッシュ・フォーク風の芳香と清涼さ放つサウンドを伴って、彼女の朝露のように清々しく、まっすぐな唄たちは、心の中にずっとしみ通る。まるで、彼女が初めて伝統歌と出逢ったときの初々しい感動が、そのまま表現されたかのように、一曲一曲が芯が強く、清く、美しい。CD 収納型紙ジャケット 2015 作。Lindsay Straw)
- *GIRO:Galway International Retro Orchestra C
 (アイルランドのゴールウェイで結成された一姫三太郎の四人組。一姫でフイドルのまよさんは日本人で、Giro のアコーディオン奏者の Anders Trabjerg の奥様。Anders はゴールウェイで長年演奏活動をしているデンマーク人。残りの二太郎はカナダ人フルート奏者の Kyle Borley とニュージーランド人クラリネット奏者の Geoff Ward。彼らが目指す音楽は 20 世紀はじめ頃の雰囲気音楽。この目標設定は大正解。アイリッシュもジブシーもクレズマーも北欧も「20 世紀はじめ頃の雰囲気」をそれ風のレトロなサウンドで創作していて、ユニークだし、全体を通して、コミカルだったり、ホロリとさせられたり、音楽に人情味が感じられて、心はずっと笑顔。古いアイリッシュと古いジブシー音楽が調和共存する音楽を初めて聴いた。2014 作。GIRO)
- *MARY COOGAN AND FRIENDS:Christmas A
 (w. Joanie Madden, Jerry O' Sullivan, etc. 2001 作。Mary Coogan)
- *LIAM MERRIMAN & EOIN O' MEACHAIR:The Birds Never Cease C
 (Liam Merriman はアイルランドのウォーターフォードのヴェテラン SSW だが、近年はナッシュビルをも拠点にレコーディングと演奏

活動をしていて、本作は同郷の Eoin O' Meachair {ハント'ォー、マント'リン、
メイアール} をパートナーに迎えて、ナッシュビルで録音したもの。本作
は男性 SSW タイプの音楽だが、結構胸キュンになる。Liam 自身は
Christy Moore や Christie Hennessy 等のアイリッシュ・シンガーが
描いてきた世界や風景を意識して制作したそうだが、聞こえてくる
音楽は、夢の世界をうきうきと旅してまわるような心の自由さと優
しさが感じられ、気分清々しい。野原でうたう「唄のおじさん」的な
Liam の優しいうたも心惹かれるし、隠し味的に盛り込まれたアイリ
ッシュな爽やかなサウンドが、朝、野原を散歩するように気持ち良
い。2015 作。Three Rivers)

*DEIRDRE GRANVILLE: Imram G

(先に CD デビューしたアイリッシュ・フルート奏者の Aoife
Granville の母親で、アイルランドで著名なヴェテラン・アイリッ
シュ・ハープ奏者でシンガーの Deirdre Granville のデビュー CD。
ハープ部門や彼女が参加するシンギング・グループで、いくつも
のメダルを受賞しているという。彼女のハープは金属弦ではない
のだが、音色は金属弦に近いシャープな気品のある音色で、ハープ
のソロと他の楽器とのアンサンブルとで、ハープをフィーチャー
した伝統的な香りのするアイリッシュ・ミュージックをさらりと
演奏している。そのさらり感がむしろ彼女の伝統音楽への愛情の
深さが感じられ、何とも心地よい。唄は“Ar Sinsir-Song”の一曲の
みだが、ゲール語の上品なシンギングが心地よい。w. Steve Cooney,
Gerry O' Beirne, Aoife Granville 他。2015 作。Deirdre Granville)

*ALISTAIR RUSSELL & CHRIS PARKINSON

: A Glass And A Mile B

(元 Battlefield Band のシンガーでギター奏者の A. Russell とアイ
ルランドの Mayo をルーツとするアコ奏者の C. Parkinson による二
枚目。大半はアイリッシュ。Alistair は父親から多くのアイリッ
シュ・ソングを聞かされたという。Alistair の唄は Battlefield
Band の流れを引く印象だが、その流れの中でも愁いのある曲ばか
りをうたっていて、何やら「心の唄」的な内容で、聴いていて、懐か
しい気分になってしまう。2013 作。Glade)

*KYLE CAREY: North Star B

(Seamus Egan をプロデューサーに迎えて制作されたケルト系米
国人 SSW の Kyle の本作は、アイルランド、スコットランドそしてア
ラチアのトラッドの範囲を自身のルーツの音楽として愛情を傾けた
上で、花咲いた美しい唄たちが詰まったもの。Kyle は自身のご先
祖 {アイルランド、スコットランド、アラチア} に思いを馳せるようにスピリット
高くうたう。共演者は Pauline Scanlon {約半分の曲で最高に美
しい高音パートのハーモニーヴォーカル}、Solas の Eamon McElholm, Catriona
McKay, Chris Stout, Dirk Powell, Natalie Haas, James
MacKintosh, Ben Walker, Josienne Clarke, Gillebride
MacIilleMhaoil。2014 作。Kyle Carey)

*BREAKING TRAD: Breaking Trad A

(何度聴いても Donal Murphy のアコーディオンは魔法のアコーディ
オン。手を変え品を変え、本当にアコが飛び跳ねる。絶頂期の

Sharon Shannon を彷彿させるノリで、アコの音を聴くだけで、体
にこにこ上機嫌。本作はトリオ名義で、フィドルの Niall Murphy と
ギターの Mike Galvin の共演仲間なのだが、アコの演奏が際立っ
ていて、二人は Doanal のアコの演奏に刺激されてフィドルとギター
は小躍りする印象で、アイリッシュする躍動感がもの凄い。2015
作。Breaking Trad)

*THE OUTSIDE TRACK:Light Up The Dark A
(アイルランド、スコットランド、カナダ・ノヴァスコシア出身による四姫一太郎の汎ケル
ティック・バンドの Outside Track~Teresa Horgan{ヴァーナル、フルト}、Ailie
Robertson{ハーブ、ヴァーナル}、Fiona Black{アコ}、Mairi Rankin{フィドル、
ヴァーナル}+Cillian O'Dalaigh{ギター、ヴァーナル})~の待望の五枚目は
アイリッシュ、ケープ・ブレトン、スコティッシュのブリックでかっこいい三曲メ
ドレーの一曲目“Drilling”のお目覚め曲で幕開けし、三つの国のダンス曲を
フレッシュなセンスで巧みに絡ませつつ、思いもかけない展開を企てたり、か
と思えば、しっとりとした優美な曲やシンギングで癒やしもする。2015 作。
Lorimer)

*THE NE'ER DUWELS:The Ne'er Duwels A
(The Ne'er Duwels はアイルランド人シンガーの Ken O' Malley とイアン・パイ
プ奏者の Patrick D'Arcy とマルチ楽器奏者の Bryan Dobbs とグラ
ム賞受賞ドラマーの Forrest Robinson の米国の四人組アイリッシュ・バンド。
アイリッシュ・ミュージック+αの魅力を発散する実力派だ。2015 作。
Ne'er Duwels)

*VINCENT CAMPBELL:The Purple Heather D
(二枚組。副題“Traditional Fiddle Music From Donegal”。Vincent
Campbell は 1938 年ドニゴール生まれで、ドニゴールのフィドル演
奏の代表者。すっぴんのフィドル演奏がたっぷりの全 66 トラック。
P36 のブックレット付。2010 作。CNF006)

*NOELEEN NI CHOLLA:An Mhaighdean Mhara C
(ドニゴールのグウィット出身で、Altan のマレドが始まりの紹介文を書い
てる女性シンソニス・シンガーの Noeleen Ni Cholla のソロデビュー作。妖精
がらみの不思議な唄や悲恋の唄などの愛唱歌をゲリック・ソングのリズ
ムと柔和な響きをピュアに保ち、子守歌をうたう優しさで包む。伴奏
は Manus Lunny, Calum Mac Colla, Martin Crossin の三名。彼らのツ
クナアイリッシュ・サウンドが Noeleen の柔らかなシンギングを優しくしている。
2015 作。Clo Iar Chonnacht)

*ANNA FALKENAU:Feileacan na Saoirse B
(ご主人がアイルランド人で、現在ゴールウェイ在住のドイツ人ア
イリッシュ・フィドラーの Anna Falkenau の古くさがが美味しいアイ
リッシュ。何度も聴く内に彼女の渋いフィドルの魅力の虜になっ
てしまった。彼女は米国に住んでいたらしく、本作では二曲、米国の
オールド・タイム・ミュージックも演奏しているが、シュリーヴ
ルークラ等のアイリッシュと違和感なく、同じ国の伝統音楽のよ
うに響き、心に響く。この渋さ、そして温和さは貴重。彼女は今、子
ども達に人気のフィドルの先生だそうだが、こんな先生に習った
子ども達はきっと心に響く演奏ができるフィドル奏者に育つに違
いない。渋くて素敵なおアイリッシュ・フィドルだ。w. Ged Foley,

Mary Shannon, Kevin Hough, Lena Ullman, Holly Geraghty, Steve Sweeney, Johnny 'Ringo' McDonagh. 2014 作。Scroll)

- *BULLY ACRE: The Twelve Pins G
(Bully's Acre を名のる Peter Browne {アコーディオン} と Robbie Harris {パーカッション} のアイルिशの達人とダブリン在住アルゼンチンギター奏者の Lucas Gonzales によるセッションにはぶっ飛んでしまった。Lucas のギターは主にフラメンコスタイルのギターで、アイルिशには異色のサウンドなのだが、何より Peter Browne と Robbie Harris の究極のと言ってしまうほどのリズム遊び感覚抜群の至芸が素晴らしく、二人の至芸に Lucas の熱いギターとぶつかり合って、アイルिशの火花を散らす。2014 作。Big Beat Music)
- *IRISH FOLK FESTIVAL 2009 "Between Now And Then" B
(David Munnelly Band {Walnut Valley Bluegrass Festival のライブ音源から 4 曲}, Niamh Parsons & Graham Dunne {2009 年 Graham Dunne 録音による新録曲 4 曲}, アイルिश・シンガーの Tommy O' Sullivan {2009 年 Lunasa の Donogh Hennessy 録音による新録曲 4 曲}, ケープ・ブレトンの美人フィドル率いる Jennifer Roland Band {2009 年新録曲 4 曲} の全 16 トラック。それぞれのアーティスト/グループがそれぞれに素晴らしい。アーティスト/グループの紹介&曲目解説付。2009 作。Magnetic)
- *HARRY BRADLEY & MICHAEL CLARKSON: The Pleasure Of Hope B
(副題 "Flute Music From Belfast And Beyond"。アイルिश・フルート奏者の H. Bradley ともう一人、Harry と同じベルファスト出身のフルート奏者 M. Clarkson によるアイルिश・フルート・アルバムの名盤。曲目はベルファスト、フェアナ、スライコー、ドニコール、リトリム、ロスカン、クリアー、シュリヴ・ルークラ等などアイルランド縦断的にフルート二本で、「これがアイルिशだぞ！」と言わんばかりの様々な表情のアイルिशで歓喜させる。ブックレットで Ciaran Carson が最高の賛辞を寄せている。2009 作。HBMC09)
- *MARTIN MCHUGH: The Master's Choice a
(ニューヨーク、シカゴ、ボストン等のアイルिश・ミュージックが伝統的に盛んな都市が米国の諸都市にあるが、ミネソタ州ミネアポリスもアイルिश・ミュージックが盛んで、アコーディオン奏者の Martin McHugh はもう何十年もその中枢で演奏してきたヴァイオリン演奏家。1960 年～1970 年代のミネアポリス周辺で演奏されていたアイルिश・ミュージックを今に伝える貴重な演奏家という。本作は Martin の豊富なレパートリーに驚いた Laura Mackenzie が音楽仲間の Daithi Sproule を誘って、三人のセッションで収録したもの。全 16 トラック。Martin 爺さんの演奏は常若。老い知らずのダンス曲の数々だ。この爺さん、アコを持ったら、勝手に弾きまくるんじゃないのかな？ 2013 作。Laura Mackenzie)
- *3 TRIUR: Omos B
(Peadar O Riada {コンサーティナ}, Caoimhin O Raghallaigh {ハルディングフェール}, Martin Hayes {フィドル} のトリオ "3 Triur" の三枚目。全曲 Peadar の自作曲。Peadar はアイルランドの村々で伝承されてきた音楽、その音楽を継承し、演奏し、作曲した偉大な音楽家達やその音楽に磨きをかけてきた音楽家達に敬意を払い、自身が作曲した音楽をトリオで演奏したのが本作。前二作同様、三人の演奏は暖炉のある部屋で、心通わせ演奏し合うような心に響く音楽を奏で合っているのだが、本

作は曲作りの着想が、例えば、Michael Tubridy だったり、Micho Russell だったり、Tony MacMahon だったり、はたまたクラの伝統音楽家達だったりとその音楽性がある意味個性化されている分、各曲の彩り、下世話な言い方をすれば、臭みが楽しい。全 14トラック。2013 作。Peadar O Riada)

*SHANE McALEER: Long Time No See B
("At The End Of The Day"まで Derish のフィドラーとして活躍していた北アイルランドのベルファストの出身のアリッシュ・フィドラー-Shane McAleer のソロ。退団の理由は飲酒問題。アル中だったのだろうか？昔、イギリスの田舎町で Dervish と会ったときに彼と会ったことがあるが、今は痩せて別人。Shane の演奏は Dervish 時代のエネルギッシュな演奏とはおさらばを感じさせるもの。年齢を重ねたということもあろうが、内面から湧き上がる感情のままに演奏したかのように音楽が美しい。美しいが音の根に粘着力があり、心揺さぶるたくましい美しさだ。曲目は彼の豊富なレパートリーからの選りすぐりの各種ダンス曲とアール曲そして自作のダンス曲とアール曲とから成っていて、Solas の Eamon McElholm がギター等で阿吽の良き女房役を努めている。2013 作。Shane McAleer)

*BRENDAN MULHOLLAND: Jean's Hill A
(Brendan Mulholland, Brendan Hendry, Paul McSherry のフルト奏者のソロ。北アイルランドの伝統曲を中心にした本作は、Brendan の誠実な人柄がそのまま音楽となったような音楽。様々なレパートリーのダンス曲を凄いテクニックで演奏するが、Brendan はその音楽の持つ個性をゆがめずにきっちり演奏することに終始する。その几帳面さが音楽の味わいをまっすぐに深めている。静かな部屋で、心を集中し、演奏してるような澄んだ空気感もいい。2012 作。Brendan Mulholland)

*THE USHER FAMILY
: Traditional Singing From County Louth A
(Mary Ann Carolan {1902-1986}、弟の Pat Usher {1912-1988} そしていとこの Petey Curran {1896-1980} の Usher Family の 1974 年収録の音源から制作された貴重なアリッシュ・トラッド・アルバム。全 22 曲。録音したのはトラッド・シンガーの Donal Maguire。約半数は 1982 年の Topic 盤で広く知られる収録時 52 歳の Mary Ann の純朴で美しいシンギング。Mary Ann はリズムを取りながらうたってるのが、物音から知覚できる。男性二人のシンギングはいたっておだやか。曲目は一家が伝承してきた民謡。一般的に知られる伝統歌ではないが、どの唄も暖かく深い。砂漠でアリスの逸品。2014 作。Rossendale)

*PADDY O'BRIEN, NATHAN GOURLEY & DAITHI SPROULE
: Bright And Early A
(アコデイオンの Paddy とフィドルの Nathan と Altan のギターの Daithi のトリオによる新作。全 16トラック {35 曲} をすいすいと演奏する。ライブで黙々と、それでいて変幻自在に軽やかに演奏する Paddy のアコデイオンに Nathan と Daithi が音を合わせる風で、Daithi のギターを聴けば、取り立てて頑張って演奏している風ではなく、ある意味鼻歌をうたうような気楽さでギターを爪弾いているようにきこえる。本作の演奏の中心はどう見ても Paddy のアコで、Nathan と Daithi はどちらかと言うと Paddy の引き立て役。アリッシュ・ダンスのリズムが跳ねて出てくる Paddy の

アコ演奏は目が回るほど。2014 作。New Folk)

*LA LUGH: Senex Puer G

(La Lugh は Eithne Ni Uallachain {ウォカ、フルト、ホイッスル} と Gerry O' Connor {フィドル} の二人組。改めて聴いてみようと思ったのは、Eithne が亡くなる前の三年の間に録音した音源からの編集盤 "Bilinga" を聴き、その時点で、アイリッシュ・シンギングとアイリッシュ・ミュージックの進化形を既に創作していたことに驚かされたからで、改めて 1998 年作の La Lugh の本作を聴き、正にそうした音楽の精華を、伝統を踏まえつつ、創作意欲旺盛に、緻密に、思慮深く、大胆に表現しているのに初めて気づかされた次第。当時は、創作意欲をアイリッシュ・ミュージックからの後退と、深く聴かずに耳が判断していたが、修行が足りなかったと反省。アイリッシュ魂が本当に深い感動作。1998 作。フランス Sony)

*EITHNE NI UALLACHAIN: Bilingua G

(今や伝説のグループの La Lugh や Cosa Gan Bhroga のシガ-の Eithne {1957-1999} の唯一のソロアルバム。本作で初めて Eithne が 1999 年に亡くなっていたことを知った。死因は不明だが、本作のレコーディングは長い闘病から回復した 1997 年から 1999 年に亡くなるまでの期間に行われ、収録曲は全 11 トラック。本作を聴いて驚くのは、アイルランドの SSW として、クリエイティブな音楽の創造に挑んでいることだ。二曲目の "Meadhran Samhraidh" ではアイリッシュ・ダンス・ミュージックの躍動感を最大限に活用し、当時としては Donal Lunny や Bill Whelan に引けを取らぬ最前線のウォカ&ダンス・ミュージックを創り上げ、三曲目の "Grief" や四曲目の "Lughnasa Damhsa" ではケルト風の幽玄な唄の世界を創り上げている。豊富な音楽のアイデアが自作の唄を通して、見事なアイリッシュ風「唄の花」を咲かせている 2014 作。Gael Linn)

*AOIFE NI CHAOIMH & PAUDIE O' CONNOR

: Didnt She Dance and Dance G

(シュリーヴ・ルークラの伝統音楽に造詣の深いフィドル奏者の Aoife とアコ奏者の Paudie とのご夫婦コト。本作は二人がこれまでに一緒に演奏した演奏家達と愛聴した音楽に捧げられたもので、聴き親しんだシュリーヴ・ルークラのシュリーヴ・ルークらしい音楽が生き活きと演奏されてる。二人は演奏することで、時空を超えて音楽の故郷へと里帰りし、先輩名人であり音楽の師である Pdraig O' Keefe や Denis Murphy や Johnny O' Leary 等と心通わせているのだろう。リスナーの評価など無意味な一途で清く美しい音楽。ゲスト: Paul de Grae {ギター}, Ruairi McGorman {ベースキ}。2014 作。Paudie O' Connor)

*CORMAC DE BARRA ・ ANNE-MARIE O' FARRELL: Duopoly G

(Clannad の Moya Brennan とも活動するアイルランドを代表するアイリッシュ・ハープ奏者の Cormac De Barra とクラシック・ハープ・スタイルのアイリッシュ・ハープ奏者の Anne-Marie との待望の新作。前作 "Double Strung" はアイリッシュ・ハープ・ファンに大人気のアルバム。本作はまるでクリスマスの時期に合わせ創作されたかのような厳かな中に、美しく華やかな雰囲気 に 充ちた心洗われ、心おどるアイリッシュ・ハープ・ミュージックになっている。使用ハープは Cormac が Salvi Egan, Salvi Aurora, Phillip Murray harp {金属弦ハープ}、そして Anne-Marie が Salvi Livia, Salvi Diana pedal harp, Colm

O Meachair harp{金属弦ハーフ}。カウイの各種ハーフのきらびやかな音色と金属弦ハーフの高貴な音色とを組み合わせ、アイルッシュ・ハーフ・ミュージックの究極の美を創作している。2014 作。Anne-Marie O'Farrell (Cormac De Barra)

*TONY MacMAHON & STEVE COONEY

:Scaoil Amach an Pocaide - Live in Spiddal G

(現在パーキンソン病を患って演奏に支障を持つ Tony Mac Mahon{アコ}と Steve Cooney{ギター}の二人組による 2005 年の貴重ライブ。Tony の病気のことを知って聴くからか、本作での Tony のアコの演奏の大きさに驚かされる。と同時に音楽への並々ならぬ愛情が、ある曲では気持ち大らかに、ある曲では気持ち軽やかに、またある曲ではしみりと注ぎ込まれていて、いやはずっかり夢中にさせられてしまう。一曲終わるとの観客の感性がこれまた熱い。Martin Hayes が「これは、アイルッシュ・ミュージックに興味を持つ誰もが所有すべき美しく、そして心底感動的なアルバムだ」と推薦文を寄せている。同感。2014 作。Raelach)

*TEADA:Irish Traditional Music G

(Teada の貴重なデビュー作。ブックレットを留めるホッチキスに若干サビが見られます。2002 作。Ceol)

*MARY McPARTLAN:Petticoat Loose G

(Dolores Keaneクラスのアルト・シンガーでアイルランド音楽界も重要人物 Mary の 2 枚目。w. Seamie O Dowd{プロデューサーでもある}, Cathal Hayden, Frankie Gavin, Mairtin O' Connor, Brendan O' Regan, Gerry O' Connor, Garry O' Brien, Johnny Ringo McDonagh, Rick Epping, etc. 2008 作。Mac P Productions)

*COLLEEN RANEY・COLM MacCARTHAIGH:Cuan A

(ケルト系女性アルト・シンガーの Colleen とケルト系ギター&タンバリン奏者の Colm のコラボの音楽は、Colleen の美しく芯のしっかりしたシンギングと Colm のケルティックなギター・サウンドが絶妙で、良質のブリテン・フォークやアイルランド系音楽を奏でていて、心奪われる。ギター伴奏のケルト系の女性シンガーのアルバムとして絶品。2011 作。Cuan Music)

*KEVIN MADDEN:The Sugar Loaf B

(マンチェスターの中年アイルッシュ・フイッラーの Kevin Madden のデビューアルバム。1996 年の All-Ireland のフイッル部門のチャンピオンだという。それから幾年月。本作に聴く Kevin のフイッル音楽 [スロー・エアー一曲以外はアイルッシュ・ダンス曲] はチャンピオンというイメージとは異質のな、家庭で気心の知れた兄弟や友人と演奏することを楽しむかのような爽やかなアイルッシュ・ダンス曲の連続。共演相手は、Mike McGoldrick{フルト}, John Joe Kelly{ハープ}, Gerry Conlon{ピアノ、アコ}, Bernie Roberts{コンサティーナ}, Noely Ryan{ギター}, Tim Edey{ギター}, Pat O' Reilly{ブズーキ}。2014 作。Kevin Madden)

*IRIS NEVINS:String Theory A

(副題"Celtic Tunes Played On Harp, Guitar&Wired Strung Harp"。アイルッシュ・ハーフ 兼ギター奏者の Iris Nevins のハーフとギターをフィーチャーしたケルティック・ミュージック・アルバム。金属弦ハーフを交えたハーフの演奏もギターの演奏も中世のケルティック・ミュージックを想起させる気品ある響きを爪弾き

出していて、新鮮。むしろ美しいケルティック・チューンを純粹に素朴に演奏していることが、ハープ、ギターが本来持っている美しい弦の響きを引き出していて、素直に美しく感じられる音楽になっている。14トラック中、5トラックは、Linda Hickman {フルート、ホイッスル} または Doug Barr {コンサティーナ} または Tom Dunne {アコ} とのコラボ。それらは朝のセッションのような清々しさが感じられて、何とも快い。不思議に聴き飽きない愛おしい音楽。2012 作。Iris Nevins)

- *THIS IS HOW WE FLY: This Is How We Fly C
(本作は Caoimhin O Raghallaigh とアイルランド人クラリネット奏者の Sean Mac Erlaine とスウェーデン人パーカッション奏者の Petter Berndalen そして米国人ステップ・ダンサーの Nic Gareiss の四人によるコラボ。Caoimhin と Sean がソロで、また二人奏でるメロディは、Martin Hayes の音楽を自由に膨らませたような音楽。アコースティック曲などは悠久の調べと化している。ステップ・ダンスのタップの音とパーカッションの音の聞き分けが出来ないが、地中で鳴り響くような音で自在なリズムを刻んでいる。Play With Music)
- *AMELIA HOGAN: Transplants: From The Old To The New B
(Amelia は米国人アイルランド・シンガーだが、凛としたシンギングは、70 年代の女性トラッド・シンガーのいくつかの名盤をホフツさせる見事さ。そんな Amelia の唄からは、アイルランド系アメリカ人達が、彼らの先祖や彼らの心の故郷を想う感情が込められているようにも感じられて、心に響く。素朴なギターのみでの伴奏というのが、Amelia の唄の質を高めているようにも聞こえる。米国から珠玉のアイルランド・トラッド。2013 作。Amelia Hogan)
- *NORLAND WIND: Storm In A Teacup C
(副題 "Music And Song From The Celtic Northwest"。Clannad タイプのケルティック・トラッドの名品。Kerstin Blodig はこれまで素晴らしいケルト風ファンタジック・ミュージックを創作してきたが、本作は新グループ {メンバーは Noel Duggan {ヴォーカル、ギター}、Thomas Loeffke {ハープ、ヴォーカル}、Angelika Nielsen {フィドル、ヴォーカル}、Henning Flintholm {キーボード、ヴォーカル} を結成し、ケルティック・グループとしてバランスの取れた音楽を創作している。サウンド面では Thomas Loeffke のケルティック・ハープと Angelika Nielsen のフィドルの効果が大きい。Clannad より Clannad らしい。Ian Melrose。2013 作。Laika)
- *JOHNNY DUHAN: Family Album (90 作。1st。Round Tower) B
- *JOHNNY DUHAN: Just Another Town (2nd。Bell) C
- *JOHNNY DUHAN: Don Quixote (3rd。Bell) C
- *THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 1
"Young Irish Musicians Weekend" A
(2007 年版の Vol. 1。生演奏をするミュージシャンは、James Kelly, Tommy Martin, Paddy O'Brien, Daithi Sproule そして Fintan Vallely。全 22 トラック。CD-R。The Center For Irish Music)
- *THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 2
"Young Irish Musicians Weekend" A
(2008 年版の Vol. 2。生演奏をするミュージシャンは、Liz Carroll, Dermot Diamond, Tara Diamond, Tommy Martin そして Daithi Sproule。全 14

- トラック。CD-R。The Center For Irish Music)
- *THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 3
 “Young Irish Musicians Weekend” A
 (2009年版のVol. 3。生演奏をするミュージシャンは、Liz&Yvonne Kane, Eliot Grasso そして Daithi Sproule。全 13トラック。CD-R。The Center For Irish Music)
- *THE CENTER FOR IRISH MUSIC VOL. 4
 “Young Irish Musicians Weekend” A
 (2010年版のVol. 4。生演奏をするミュージシャンは、Martin Hayes, Kevin Crawford, Randal Bayes, Daithi Sproule そして Danny Diamond。全 13トラック。CD-R。The Center For Irish Music)
- *THE CENTER FOR IRISH MUSIC LIVE RECORDING VOL. 5
 “A Harvest Home” A
 (2011年と2012年のライヴからのVol. 5。出演者は、Maighread Ni Dhomhnaill {3曲。内1曲は Daithi Sproule とのデュエット}, Harry Bradley, Jesse Smith, Felix Dolan {4曲。内1曲は Harry Bradley のソロ}, John&James Kelly {4曲。内1曲は James Kelly のソロ}, Dave Shepherd, Sean Gavin, Brian Miller {1曲}, Jesse Smith {1曲}, Eileen Gannon {1曲} 他。収録曲は 15トラック。渾身の演奏とシンキングばかり。Produced by Daithi Sproule。CD-R。The Center For Irish Music)
- *LITHA: Dancing Of The Light C
 (メンバーは、Aaron Jones {ヴォーカル、ベース、ギター}, Claire Mann {フルート、ホイッスル、ヴォーカル}, Gudrun Walther {ヴォーカル、フィドル、アコ}, Jurgen Treyz {ギター、トブロー、ヴォーカル} のスコットランドとドイツの組み合わせ。曲目はアイルッシュが半数近くで、バランスの取れた演奏と歌唱は、アイルッシュをベースにしつつ、音楽をコンテンポラリーな域にまで高めている。2011作。Arte)
- *CONOR QUINN & MALACHY BOURKE
 :Live At The Steeple Sessions B
 (ゴールウェイっ子の Tonor と Malachy は幼友だちでアイルッシュ・フィドル楽隊同志。一緒に演奏を始めたのは 1992 年という。本作は 2011 年、ダブリンの Unitarian Church という教会でのライヴ。確かにフィドル二台の演奏なのだが、知らずに聴けば、フィドルソロとってしまうような二台のフィドルが一つになってしまったような音楽。二人の演奏からゴールウェイの古いフィドル・ミュージックのスタイルを感じてしまう。ゆるく、伸びやかで、ワビサビ感のある音楽。この音楽性は Martin Hayes のスタイルに近い。Tonor と Malachy の、まるで「二人で一人」の飾らない音楽は僕には悠久の調べにも聞こえる。まばらな拍手が寂しいなあ。2013 作。Ergodos)
- *BAIDIN FHEIDLIMI - Gael Linn Singles 1968-1980 B
 (Johnstons, Sean O Se, Ro-og Breandan O Duill&Skara Brae, Triona Ni Dhomhnaill, Maighread Ni Dhomhnaill, Michael O Domhnaill & Donal Lunny, Dermot O'Brien 他。Gael Linn の稀少音源からの全 20トラック。2013 作。Gael Linn)
- *DELIA MURPHY: If I Were A Blackbird B
 (多くの人々に愛されたアイルランドの女性フォーク・シンガーで、民謡収集家の

Delia Murphy [1902-1971] の 1930 年代後半から 1940 年代の音源からの編集盤。全 21 曲。セピア色の唄とのどかなアイリッシュ・ミュージックが一服の清涼剤。2013 作。WHM01CD)

- *COMAS: Charge G
(2005 年、ベルギーから衝撃のデビュー以来長い間待った Comas の二枚目。Solas と Lunasa を掛け合わせて 2 で割ったような疾走感と流動感が素晴らしい。メンバーは Kevin Burke のいとこの Aidan Burke [フィドル], Philip Masure [ギター、シタール、ブズーキ], Jackie Moran [バウロン、パーカッション] そして Sylvain Barou に代わって新加入の Isaac Alderson [フルート、リアン・パイプス] の計 4 名。ゲスト: Sylvain Barou。2012 作。Appel)
- *MAURICE LENNON: The Little Ones G
(伝統音楽一家 Lennonファミリーのフィドル名手で、若き日には Stockton's Wing で活躍した Maurice Lennon の子。父親は Ben Lennon。Charlie Lennon は叔父に当たる。Maurice は癌の病で、闘病を繰り返しているという。聴くなり何とも言えない深い味わいのあるアイリッシュ・フィドルに吸い込まれてしまった。これは至芸としか言いようがない素晴らしい演奏だ。その至芸に Charlie がリズム遊びでもするかのようにピアノで伴奏を付けているのが、何とも軽妙で楽しい。ゲスト: Ben Lennon, Brian Lennon, Garry O Briain, Noel O'Grady, Paul Roche, etc. 2013 作。Clo Iar-Chnacht)
- *LONG TIME COURTING: Alternate Routes B
(アイリッシュ/ケルティック・ミュージック・シーンに爽風を注ぐ素晴らしい女性 4 人組アイリッシュ系トラッド・グループがアメリカからデビューした。新グループだが、音楽のキャリアに裏打ちされたアイリッシュ&ケルティック・スピリットは、今が高みを誇っている。メンバーは Sarah Blair [フィドル], Valerie Thompson [チェロ], Liz Simmons [ギター] そして Matt&Shannon Heaton の Shannon Heaton [フルート]。総合力で、疑い無く Top Irish Group。2013 作。Long Time Courting)
- *COLM NAUGHTON: The Space Between The Notes B
(Mairtin O'Connor 一押しのアイリッシュ・バンドリーダーそしてマントリン奏者の Colm のデビュー作。バンドリーダーとマントリンを中心にギターとブズーキも重ね撮りで演奏する。昨今アイリッシュ・バンドリーダー奏者の素晴らしいアルバムが発売されているが、Colm はそうした演奏家 + α の魅力を持った演奏家。つまりバンドリーダー命でダンス曲を見事に演奏する上に、音楽的というか、心が感じられる演奏を美しく披露する。w. Jimmy Higgins, Sean Keane, Pat Coyne, Orlath Keane, etc. 本作は天国の母親 Nellie に捧げられている。2013 作。Colm Naughton)
- *SEODA GEOIL 1 & 2 G
(Gael Linn の 60 周年記念で発売された 1960 年代後半のアイリッシュ・ミュージックの名演奏家の演奏集で 2 枚組 CD。“1”収録は、Willie Clancy, John Kelly, Sean O Conaire。“2”収録は、Seamus Ennis, Sean Keane, Seosamh O hEanai [Joe Heaney], John Joe Gannon。2013 作。Gael Linn)
- *LEN GRAHAM: I'll Sing You A Story B
(アイリッシュ・トラッド・シンガーの大御所 L. Graham の本作は、副題“Songs From Ireland For Young People”が示すように子ども向けのアイリッシュ・ソング)

- が集。Lenが見つけた民謡や人がうたって聞かせてくれた民謡や
 Lenの母親がその母親から教わった民謡など Lenが長い人生の中
 で持ち歌にしている民謡を優しくうたったアルバム。w. Garry
 O Briain, Ronan Browne, Mairtin O' Connor, Tommy Hayes, Jimmy
 Johnson. 曲目解説付。全16曲。2012作。CDR。Cranagh Music)
- *PADRAIGIN NI UALLACHAIN: Let The Fairies In B
 (Len Grahamの奥様 Padraiginの本作は、1994年に発売された小さい
 子向け「子守歌」を中心にした名作“A Stor Is A Stoirin”の姉妹
 アルバム。Donovanの“HMS”の世界というか、これはもう夢の世界。
 w. Donal O' Connor, Steve Cooney, Garry O Briain, Ronan Browne,
 Tommy Hayes, Odhran O Casaide。全11曲。2012作。Ceoltai Eireann)
- *MAIRE UNA NI BHEAGLAOICH & JUNSHI MURAKAMI: Ceol Uisce G
 (Seamus Begley といこの Maire {Maire Begley} とダブリン在住日本人
 アイリッシュ・ハープ奏者の Junshi {村上淳志} とのコンサートとハープのデュエッ
 ト・アルバム。曲目は Maire の出身地のケリーの音楽からカローラの曲を含むア
 イランドそしてスコットランドの音楽と広がりを見せてはいるが、音楽の
 空気は伝統音楽の家系 Begley 家の音楽の空気。Junshi 君のハープは
 その空気と音楽のゆったりペースの中で水玉の音色を奏で、水色の
 水彩画のような彩りを添えている。春のうららかな日にノースと聴
 いていたい音楽。砂の音と共に始まり、砂の音で終わる。このゆる
 い音楽は貴重。パッケージは一枚一枚麻紐で十字に結ばれている。
 2012作。Ceol Uisce)
- *JOHN McEVOY: Traditional Irish Fiddle A
 (Catherine McEvoy との共演盤“The Kilmore Fancy”や John Wynne と
 の共演盤で知られるフィドル奏者の John McEvoy のソロ。和名義だが、実
 質的にはゲストの共演者とのピアノ、ハープ、フルート、コンサート、アコーディオン、
 フィドルとのデュエット形式の音楽。共演者は Con McEvoy, Paudie
 O' Connor, Jacinta McEvoy, Gay McKeon, Catherine McEvoy, John
 Wynn。2012作。LAGORE002)
- *MICHEAL O RAGHALLAIGH & DANNY O MAHONY: As It Happened A
 (コンサート名手の Micheal O Raghallaigh とホタン・アコーディオンのオール・アイ
 ルランド・チャンピオンのジャバ楽器のデュエット。2012作。DOMCD002)
- *MICK O GRADY, JESSE SMITH, JOHN BLAKE
 : At My Grandmothers Knee B
 (メイヨー生まれで、ロンドンやアメリカ生活を経て、今日アイルランドに住む Mick
 O Grady は1940年代から50年代の南スライゴと北メイヨーのフィドル・スタイル
 を受け継ぐ熟練フィドラー。Mick のオール・スタイルのフィドルに引き寄せられ
 てやってきたのが、古いアイリッシュ・ミュージックに掘り起こしに熱心なフィ
 ドル奏者の Jesse Smith と、ここではピアノの John Blake。3人の演奏
 は、タイトルのおばあさんの膝の上で聴くような懐かしいアイリッ
 シュ。2012作。SOB001)
- *JESSE SMITH: Jesse Smith C
 (Danu のフィドルの J. Smith のソロ。Jesse Smith)
- *JOHN DALY: John Daly C
 (Tommy Peoples 推薦のフィドラー。2003作。Ossian)
- *THE WILLIS CLAN: Chapter One - Roots A

(Willis 家の先祖はスコットランド系アイルランド人の移民で、米国に渡って来たのは17世紀初めという。Willis 家の兄弟姉妹6名のアイルッシュ・グループの Willis Clan の本作は、まるで初期 Solas の勢いの滅茶苦茶かつこいい。彼らはもう5年以上も演奏活動をしているようで、変幻自在な手馴れた演奏は抜群のりだし、Jessica の舞うように軽やかなシンキングは滅茶苦茶キュート。楽器編成はアコデイオン、フィドル、ギター、バンジョー、ホイッスル、バウロン、ステップダンス。2012 作。Willis Clan)

*THE OLLAM: The Ollam

a

(Lunasa や At First Light の創設メンバーで、アラン・ハイマス&ホイッスル奏者の John McSherry と米国のアイルッシュ系バンドの Millish の創設メンバーでアラン・ハイマス・チャンピオンの Tyler Duncan と Millish の創設メンバーでジャズ・パーカッション奏者の Michael Shimmin のトリオ。基本的にアラン・ハイマスの音楽とジャズ・パーカッションの融合音楽。ケルト音楽最前線。2012 作。Compass)

*EILEEN O' BRIEN: Aon Le h' Aon

B

(2009 年に発売された“The Definitive Collection Of Music Of Paddy O' Brien{1922-1991}”の中から、Paddy の娘で、フィドル名手の Eileen が実演したアルバム。全20トラックの35曲収録。父親の Paddy と祖父の Dinny の音楽の影響を強く受けたという Eileen の演奏は、上品で優美。過度の感情移入を廃した Martin Hayes のような印象。凜として、清く美しいアイルッシュ・フィドル・ミュージックだ。2012 作。Moanfin)

*OIRIALLA: Oirialla

B

(Oirialla は Nuala Kennedy {ヴォーカル、フルート}、Gerry O' Connor {フィドル}、Gilles LeBigot {ギター}、Martin Quinn {アコデイオン} のアイルランド、スコットランド、ブルターニュの演奏達人によるスーパー・ケルティック・グループ。いやや流石。Jamie McManamy のバンドがそのまま Nuala Kennedy に移ったような一歩引いた深みのある余裕のケルティック・ミュージックを披露する。Nuala のシンキングは Karan Casey 風で、これまた味わい深い。2012 作。Lughanasa Music)

*GERRY O' CONNOR&GILLES LE BIGOT: In Concert

C

(La Lugh の Gerry O' Connor {フィドル} とブルターニュ屈指のギター奏者 Gilles との2005年12月ブルターニュでのライヴCD。「変幻自在、緩急自在な」という言葉が相応しい Gerry の空前絶後のアイルッシュ・フィドルの渾身の名演奏が矢継ぎ早に展開される。2006 作。Lughanasa Music)

*CAITRIONA NI CHEANNABHAIN: Solas

A

(シャン・ノース・シンガーの Michael Mhaire Ghabha の娘さん Caitriona のソロ。Caitriona がうたうアイルッシュ・トラットは、硬質というか、きりっとして揺るぎがなく、それでいて牧歌的。基本的な歌唱法は Dolores Keane 風なのだが、トラットよりも、全体にカントリー風味を漂わせている。w. Pat Coyne, Sean Keane, David Doocey, Stephen Doherty, Paul Canavan, Lizzy O' Malley, Peter Gannon。2012 作)

*JAMES KEANE: Heir Of The Dog

A

(1967年にニューヨークに移り住み、かれこれ45年間、ニューヨークを拠点に常にアイルッシュ・ミュージックのトップ・アコデイオン奏者として活動してきた James Keane の新作。豊富なレパートリーの中から選ばれたジグ、リール、ホーンパイプ等のダンス曲の数々は年代、地域、様々だが、それぞれにジャブ力あるダンス曲として、小気味よくも力強い。彼の音楽を評すること自体

が虚しくも感じられる、様々な力の活力あるアイルッシュ・ダンス・ミュージック。
w. Eamon O' Leary, Kathleen Boyle, Tom English。2012 作。New Folk)

*JERRY O' REILLY: Havoc In Heaven A
(伝統歌を含め、フォーク・ソングの素晴らしさを教えてくれる好盤。アルバム・
タイトルにもなっている一曲目は Frank Harte 没後に Robbie O' Connell
が作詞作曲した唄で、天国に行った Frank Harte が天国にいる著名
歌手と愉快的唄の共演をする唄。アイルッシュ・ソングのみならず、ジ・ジョン・レ
ノンやプレスリーやジャニス・ジョップリンまで登場する。Jerry の唄はストリーテラ
ーに徹していて淡々。聴き手は一言一言に耳を澄ませ、心は笑顔。本作
は 2010 年に天国に召された Jerry の奥様の Anne に捧げられている。
全 15トラック。2012 作)

*BARRY GLEESON: Tough Night A
(Barry Gleeson はアイルランドを代表するヴァン・トラッド・ソングだが、本作
は Barry のユニークなアイルッシュ・ソングが物語の内容によって、柔軟に変化する。
これはジョーク好きのアイルランド人が大いに好みそうなユーモアと皮肉の
センス溢れる伝統的民衆歌の数々。アイルランド人が歴史上最も嫌ってる人
物の一人がああのカムウエル。「カムウエルの呪い」ほか全 16 曲。w. Kevin
Konneff, The Voice Squad, Peter Eades, Grace Toland, Lauralee
Curten, etc. これは楽しく素晴らしいアイルランドのフォーク・ソングの伝統
文化。2012 作。Gleeman)

*PHIL GALLERY: Landscape Of The Past A
(Voice Squad のソング、P. Gallery のソング。Voice Squad 自体がイングランド
のファミリー・グループの Watersons や Copper Family のスタイルのアイルッシュ・トラ
ッド・ソング・グループだったが、Phil のソングもアイルッシュ・トラッドのスタイルでは
なく、1970 年前後のブリティッシュ・フォーク・リヴ・アイヴの影響を受けたイン
グリッシュ・トラッドの、それも極めて上質のソング・スタイルを保った品格のある
無伴奏ソングなのだ。"Lough Erne Shore", "The Green Fields
Of Canada", "Johnny I Hardly Knew Ye"他全 12 曲。Rosa)

*DONALL DONNELLY: Tremolo B
(カンティ・タイロ出身のフィドル奏者、D. Donnelly の、既に大物級のデビュー
作。見開きジャケット全面がフィドルのデザイン。それも年季の入ったフィドル。
こういう意匠だけで音楽の質の高さが推し量れる。音楽は正にそ
の通りで、フィドルの重ね録りやパイプとの競演やバンジョーとの競演等
様々な試みを行って、フィドルをフィーチャーしたアイルッシュ・ミュージックの魅力と
その世界を堪能させる。2012 作。Donall Donnelly)

*FREEWHEEL: Fergal Scahill, Sean McCarthy & David Howley A
(フィドル名手 Fergal Scahill とリアン・パイプス名手 Sean McCarthy にギタ
ー若造 David Howley をリズムに加えた新スーパー・アイルッシュ・グループによる
本作は、手腕の利いた演奏で、レムのよいスリングで気分爽快なアイル
ッシュ・ダンス曲とレムを緩めたユーモラスなアイルッシュ・ダンス曲をほぼ交互に演奏
する。スーパーだからと言って、突っ走るだけではなく、ユーモラスな曲も演
奏すところが、彼らの本物度を示している。2012 作。Freewheel
Music)

*GERRY HARRINGTON: At Home B
(ケリー南部から登場のフィドルの Gerry Harrington の本作は、Padraig
O' Keefe や Julia Clifford&Denis Murphy や Jackie Daly 等のスリーヴ

・ルークの音楽と Michael Coleman やドニゴールの Neil Neillie 等の 100 年近く前のフィドルの偉人の音楽。この渋さと味わいの力は物凄い。渋さの中に美しさのある見事なアイリッシュ・フィドル・ミュージックだ。2012 作。Gerry Harrington)

*LAURA TANSEY AND JOHN DALTON: The Harp And The Lark A

(クラシック畑の著名シンガーの L. Tansey によるアイルランドの名曲集。伴奏は J. Dalton のハープ。クラシック畑の音楽はあまり興味をそそられないのだが、彼女のか細くて涼やかな Laura の唄は流しっぱなしにしていると、不思議と心地よい。本当に肌に心地よい涼やかな風のような唄なのだ。ハープも「しゃかりき」ではないのが、唄の雰囲気合っている。「庭の千草」や“Star Of The County Down”他、超有名曲ばかり全 15 曲。Harplark)

*DOIMNIC MacGIOLLA BHRIDE & GRIOGAIR LABHRUID

:Guailibh A Cheile

B

(ジャンヌ・シガーの Doimnic とスコットランドの若手がリック・シガーで各種バグパイプ奏者の Griogair による Gaelic Song の絶品の共演・競演。伴奏は各種バグパイプ、クラサッハ{スモール・ハープ}、フィドル、ギター。必聴!!!2010 作。DUN1001)

*JOHN SPILLANE: A Rock To Cling To C

(欧米の SSW の中でも屈指の SSW の John Spillane の唄が始まるや、いつも John Spillane 一色。いつものことながら、うたい方は知性的で、一見穏やかで静かだが、発せられたうたそのものは熱く、言葉の力、詩の力を思い知らされる。天下一品。w. Pauline Scanlon, Donogh Hennessy, Brendan O' Sullivan, etc. 2011 作。EMI)

*DANNY MEEHAN: Drimalost and Beyond D

(副題“Traditional Fiddle Music From Donegal”。1924 年、西部ドニゴールの Drimalost という村の生まれのフィドル奏者の 2 枚組。ディスク 1 が 2007 年の録音で、ディスク 2 は古い録音 [ただし最後の 3 曲は 2008 年] で、大半がすっぴんのフィドルのソロ。全 73 曲。これほどフィドルが自由にうたい、躍るアイリッシュ・フィドル音楽を聴いたことがない。Danny 自身を例えるなら野生の鳥。分厚いブックレット付。ジャケットを見て、「ただの田舎のじいさんフィドラーか」と思ったら大間違い。2011 作。GNF008)

*PADDY O' BRIEN: Mixing The Punch A

(Sailor's Cravat で、アイリッシュ・バンドとして、ヴォーカルを含むグループ音楽の楽しさを示した Paddy だが、本作は 1947 年製のホーン・アコーディオンによる妙技を軽妙に披露したソロ。2011 作。New Folk)k

*THE SAILOR'S CRAVAT: The Sailor's Cravat A

(Paddy O' Brien の新ユニット。メンバーは Paddy に Tom Schaefer [フィドル], Paul Wehling [ブラス] に Paddy の奥方の、シンガーで小説家 [の Erin Hart の四名。Sean Ryan や Paddy Fahy 等のフィドル奏者作曲のダンス曲等を含む様々なダンス曲をガクンの深く、多様な表情で楽しませる。もうこれは熟練の技、あうんの音楽としか言いようのない螺旋模様を描いて舞うアイリッシュ・ダンス・ミュージックの連続。2011 作。New Folk)

*GOUGH, GLANCY, BRACKEN & McCARTHY

:Sessions Found 1995-2002

A

(1994 年の 11 月にフェスで出逢ったことがきっかけで結成された Danu の

- オリジナル・メンバーの Donnchadh Gough {ハープ}, Donal Clancy {ギター}, Daire Bracken {フィドル}, Benny McCarthy {アコーディオン、メロディオン} による 1995-2002 の間の空前絶後のセッション集。2011 作。GCBMC095)
- *NORAH RENDELL & BRIAN MILLER: Wait There Pretty One A
(アイルランドのテレビ局 TG4 の Irish Traditional Music Awards で “Vocalist Of The Year” 賞授賞の Outside Track のヴォーカル&アイリッシュ・フルト奏者の Norah とギター奏者の Brian Miller の 2007 年のアルバム。親しみやすいアイルランドの伝統歌の数々をうたう Norah のシンキングは誠実で優しく、またまっすぐで、春の涼やかな風のように気持ちよい。ロバート・バーンズ 収集のスコットランドの子守唄 “Oh, Can Ye Sew Cushions?” で静かに幕。Two Tap)
- *ALLAN KELLY GANG: Small Towns And Famous Nights A
(アコーディオン名手の Alan Kelly が Alan Kelly Gang {メンバーは Tola Custy = フィドル, Steph Geremia = フルト, ホイッスル, ヴォーカル, Tony Byrne = ギター} を結成。このギャング達の音楽はアイリッシュ・ダンス曲のコアの音楽をしっかりと踏まえた上で、スコットランドやニューファンドランドの音楽までも取り込みながら、新時代のアイリッシュ・ミュージックとして、ヴォリュームのある音楽を創作。2011 作。BBM006)
- *SEAN O RIADA: O Riada Sa Gaiety B
(リマスター再発盤。w. Ceoltoiri Chualann & Sean O Se. 1970/2005 作。Gael-Linn)
- *SEAN MOLONEY: Where's Me Cap A
(Patrick Kavanagh の小説 “Tarry Flynn” の音楽劇の音楽。全曲アイリッシュ・フルト奏者の S. Moloney による各種アイリッシュ・ダンスの形式、それも 1930 年代の形式の音楽で、フルト、フィドル、ホイッスル、ハープ、ピアノによるダンス音楽は、現在のアイリッシュの大元の音楽というか、基本形で、素朴で、ある種牧歌的。1930 年代に米国で一世を風靡したアイリッシュ・アメリカンのアイリッシュとは対照的な、別の意味で大衆的で、健やかなアイリッシュだ。2011 作。Sean Moloney. CD-R)
- *TARAB: Tarab A
(Emer Mayock {フルト、ホイッスル、リアン・パイプス}, Nick Roth {サクソ他}, Francesco Turrisi {アコ他}, Kate Ellis {チェロ}, Robbie Harris {ハープ}) の五人組が織り成す音楽は、まるで Andy Irvine & Davy Spillane の “East Wind” のような音楽。これが 20 年前の発売だったら、驚異のケルト+東欧音楽の異種融合音楽。2011 作。Taquin)
- *SEAN TYRRELL・KEVIN GLACKIN・RONAN BROWNE
: And So The Story Goes... A
(S. Tyrrell はフォーク・シンガーとして、K. Glackin はフィドル奏者として、R. Browne はリアン・パイプ奏者として、既に名声を得ているアイルランドの巨人三人によるライヴ。ゲスト: Fergus Feely, Jimmy Fitzgerald, Paul O'Driscoll。全 15 トラック。P20 のブックレット付。2011 作。Clo Iar-Chonnacht)
- *SEAN TYRRELL: The Best Of Sean Tyrrell B
(14 曲収録のベスト盤。Featuring Davy Spillane。2004 作。ARC Music)
- *SKIRM & DEZI DONNELLY: Welcome B
(二枚発見。副題 “Live In Hamburg”。1995 作。Magnetic Music)
- *JOHN SPILLANE: The Wells Of The World (Hummingbirds) C

- *JOHN SPILLANE:Will We Be Brilliant Or What?(2002 作。EMI) C
- *JOHN SPILLANE:Hey Dreamer C
 (ジャン・ノース・スタイルの歌唱法を活かしたリスミカルで粘着力のあるシンギングの呪術力ある不思議な快感に加えて一人遊ぶようなリスミカルなギターの美しさと楽しさは一度聴くと病みつきになる。2005 作。Hypertension)
- *ADRIAN McAULIFFE & CATHAL FLOOD:Between The Strings A
 (ケリー・バンド・チャンピオンの Allow Ceili Band のハンズ・オン奏者の Adrian のハンズ・オンをジャズ、レゲエ、ロックにも影響を受け、かつアイリッシュ・ミュージックに造詣が深いアイリッシュ・ギター奏者の Cathal が控えめながら遊び心あるギターでバックアップしたり、お付き合いしたりの、心ウキウキなハンズ・オン&ギター音楽。Adrian のハンズ・オンの演奏は天才的。2011 作。AMCF01)
- *ROBERT DOYLE:Life In Shadows A
 (ダブリンのフィンガー・スタイルのギター奏者でシンガー、R. Doyle のデビュー作。Pierre Bensusan の門下生という彼のギター弾き語り是一种独特の世界を創作。Bert&John をモデルとする彼独特な、深いところでアイリッシュ・スピリットがみなぎるフォークギターミュージックの世界を生み出している。2011 作。Robert Doyle Music)
- *FLYING TOADS:In Stitches A
 (Flying Toads はイギリスのセックスで結成された紅一点の Val Marciandi がヴォーカルの 4 人組アイリッシュ・グループ。楽器編成はイアン・ハイフス、スモール・ハイフス、ギター、ベース、フィドル、ホイッスル、フルート、コンサティーナ等。彼らのアイリッシュはどこか古い。ヴォーカルが女性になった Planxty のようなアイリッシュ。2010 作。Flying Toads)
- *BRONGAENE GRIFFIN:Three Colours Ginger A
 (アイリッシュ・フィドルを Kevin Burke に師事という米国ポートランド {K. Burke の居住地} の女性アイリッシュ・フィドラーのデビュー作。アイリッシュ・ギター名手の Gerry O' Beirne {元 Patrick Street} があの手この手で、バックアップしていて、実質的には二人のデュオアルバム。Kevin は二曲でセカンド・フィドル+ヴォイスで応援。丁寧な演奏が実に気持ちいい。2010 作。Loftus)
- *JIM MacARDLE, EILIS QUINN AND MICK DUNNE
 :Madam, I'd Like To Be Tossin' Your Hay A
 (1970 年代、Jim MacArdle はカンティラウスに住む友人のトラット・シンガーでコンサティーナ奏者の Mary Ann Carolan {Mary の父親 Pat Usher は著名なジャーマン・コンサティーナ奏者} と親交したという。本作は Jim が 70 年代、80 年代にラウス中部～南部で収集した古き良き伝統音楽を Jim {ギター、ヴォーカル}、Eilis {アコ}、Mick {ハンズ・オン} のトリオで演唱したもの。砂漠でオアシスのアイリッシュ。全 17トラック。LLM)
- *DES CAFFERKEY:Achill Air A
 (生まれるとすぐに演奏を始めたというホイッスルとフルート {両楽器でチャンピオン奏者} の演奏家で Mayo School Of Music でアイリッシュ・フルートの教師を務めるホイッスルとフルートをフィーチャーした Des の二枚目。本作は収録曲全曲伝統曲。スロー・テンポな曲を前半にまとめるといふ曲順で、前半で心身をほぐし、すっかりリラックスさせ、中盤から躍らせ、舞い上がらせるという構成。職人ワザ。w. Peter Browne, Paul McGrattan, Tony Byrne, Trevor Hutchinson, Laoise Kelly, Gerry O' Connor, Tony Quinn。

- Azteca)
- *THE HIGH KINGS:Live In Ireland B
 (Finbarr Clancy {Clancy family}, Martin Furey {Finbar Furey の息子}, Brian Dunphy {Sean Dunphy の息子} そして フロートウェイのスター、Darren Holden の 4 人組 High Kings の期待通りの圧巻ライヴ。泣き笑いの名曲が全 16 曲。2011 作。Celtic Collections)
- *GIORRAS:Silver Lining A
 (アイルランド語放送局 TG4 の Donal Lunny の番組で結成された 7 人編成のアイリッシュ・トラッド・グループ Ciorras {雲の形の“巻雲”の意} のひと回りスケールの大きなデビュー作。楽器編成はフィドル、コンサーティーナ、各種フルト {フルト奏者 3 名。コンサーティーナ奏者とパイプ奏者がフルトも演奏}、イアン・パイプス、ホイッスル、ピアノ、パーカッション、バウロン、ギター、アコースティックベース、そして Giara Cunningham 嬢のヴォーカル。彼らのアイリッシュは世界レベルを旨すアイリッシュ。2010 作。Wispy Cloud)
- *FUTURE TRAD COLLECTIVE:Future Trad Collective A
 (Michael McGoldrick {イアン・パイプス、フルト、ホイッスル他}, Ian Fletcher {各種ギター、プロگرامミング}, Andy Dinan {フィドル/オール・アイルランド・フィドル・チャンピオン} のニュー・プロジェクト。彼らが創作する音楽はケルト音楽の持つリズムとエキゾティシズムをワールド・ミュージック感覚で膨らませた音楽。w. Maeve Mackinnon, Dermot Byrne, etc. 2011 作。Vertical)
- *SHAUN DAVEY:Voices From The Merry Cemetery a
 (アイルランドの作曲家の Shaun Davey プロデュースによるアイルランドの音楽家 {Liam O'Flynn, Rita Connolly, Rod McVey, Neil Martin, Noel Eccles, Gerry O'Beirne} とルーマニア・トランシルヴァニアの男性コーラス・グループ & 楽団との文化交流音楽。本作は 2009 年と 2010 年にルーマニアの教会で行ったコンサートのライヴで、アイリッシュ・サウンドによる東欧風男性コーラスは、古代ケルト教会音楽のようでもある。音楽の深いところで通底し、響きあう。2010 作。Tara)
- *JOE HOLMES:Here I Am Amongst You With Len Graham B
 (副題:Traditional Irish Songs, Ballads, Lirlts & Fiddle Tunes。全 14 トラック。Len Graham のサイン入。CD-R。2010 作。Carnagh Music)
- *MICHELLE O'BRIEN & LAOISE KELLY:The Wishing Well C
 (クア出身で Tommy Peoples の教え子フィドラーの Michelle と天下一品のアイリッシュ・ハーブ奏者 Laoise とのライヴ。2010 作。Laoise Kelly)
- *BLACK ROSE ROISIN DUBH:White Rabbit A
 (アメリカの男性 5 人組アイリッシュ・バンド。楽器編成はイアン・パイプス、ホイッスル、フィドル、ギター、バウロン、シターン、ベース、ヴォーカル。彼らのアイリッシュは独特。タム・リナーズ系統のアイリッシュ・フォークをベースに野太く、エネルギッシュに演唱した大砲級アイリッシュ。音楽の力とうねるドライブ感そして勢い任せのリリキングとヴォーカルはもの凄。これほどロッキングなエネルギーに満ち溢れたアイリッシュは久しぶり。2010 作。My Back Room)
- *BRENDAN BEGLEY & CAOIMHIN O RAGHALLAIGH
 :A Moment of Madness A
 (Seamus Begley の弟で、Boy Of The Lough の一員でもあり、屈指の伝統的アコーディオンの奏者兼トラッド・シンガーの B. Begley と現在最も意欲的な活動を行っている伝統的アイリッシュ・フィドル奏者の C. O Raghallaigh のお

二人による本作はまるでアイルッシュ・ミュージックの酸いも甘いも知り尽くした天才奏者二人が余裕綽々と音楽で遊び魂を響かせたような音楽。これ以上の伝統的アイルッシュ・ミュージックは望めない。2010 作。An Irish Music Net)

- *JOE DERRANE WITH JOHN McGANN:Grove Lane a
(既に 1940 年代後半から米国のボストンのレーベルでレコーディングを行っている米国のアイルッシュ・アコーディオン奏者の大物[Irish Echo's で 2010 年のトップ 伝統音楽家に選出]の軽やかな 2010 作。2010 作。Compass)
- *COLIN FARRELL:On The Move A
(両親がアイルランド人で、イギリス・マンチェスター生まれのフィドル奏者でホイッスル奏者の恵まれたデビュー作。プロデュースを含め、ホイッスルの先生の Michael McGoldrick が全面協力。で、生まれた音楽は Michael McGoldrick スタイルの疾走感のある今日のアイルッシュ。John Joe Kelly, Donald Shaw, Ewen Vernal, Peter Browne, Andy Seward 等の超一流の共演者達の名演奏に乗っかって滑るようにフィドルを奏で、ホイッスルを吹く、何とも気持ち良さそうに。Colin Farrell Music)
- *STEVIE DUNNE:About Time A
(副題“Traditional Musiv On Tenor Banjo”。アイルッシュ・バンジョーの音楽は同じアイルッシュをやっても、どこかのどこでユモラスな風合いを奏で出すが、この Stevie なるバンジョー奏者による本デビュー作は実に楽しい。ピクニックな気分の音楽や上品そうだとぼけた感じの音楽やアクロバティックなはや弾きで楽しませ躍らせる、かと思えば、今度はギターに持ち替えて、スマートな音楽で気分を爽やかにしてくれる。いやなこと、一切吹き飛ばしもしてくれる魔法の音楽。2010 作。Stevie Dunne)
- *GERRY O' BEIRNE & ROSIE SHIPLAY B
:Yesterday I Saw The Earth Beautiful
(元 Patrick Street で SSW で名ギター奏者の Gerry O' Beirne の本作は Rosie Shiplay なる無名の女性フィドル奏者 Rosie とのデュオ・アルバム。デリケートな感受性に富む G. O' Beirne の唄とギターは個人的に思い入れがあるが、本作でも彼らしい美しく細やかなギター演奏による心痺れる唄に惹き込まれる。2010 作。Shipwhistle)
- *BIRKIN TREE:Virginia C
(Birkin Tree はイリアのアイルッシュ・グループだが、アイルッシュ・フルート、フィドル、リアン・パンパイプス、ギター、ブザーキ、ホイッスル、ピアノ、パーカッションにより構築されるアイルッシュは憧れの気持ちも加味されてか、艶やか。Martin Hayes&Dennis Cahill が 2トラック、7 曲で共演。2010 作。Felmay)
- *BILLY CLIFFORD:Echoes of Sliabh Luachra B
(父母が John&Julia Clifford で叔父が Denis Murphy という生え抜きの伝統音楽一家に生まれ育った Billy Clifford のスピンのフルート・ソロ。Billy はシュリヴ・ルークラ地方の音楽スタイルに、豊かなヴァリエーションを加え、新たなローカル・ミュージックを創作している。数曲で Maire Begley のピアノとの共演もあるが、フルートの演奏が手に取るようにストレートに鑑賞できる演奏は見本演奏、記録演奏としても貴重。他の楽器とセッションで演奏したら、ウキウキするようなダンス曲ばかり。2010 作。WMC001)
- *BRIAN FINNEGAN:The Ravishing Genius Of Bones A
(Flook のホイッスル&フルート奏者 Brian Finnegan の二枚目は彼ならではのハ

行くと型破りな柔らかな感性に裏打ちされた万華鏡的笛アルム。アイリッシュ・スタイルの奏法を駆使しつつも、アイリッシュ・ミュージックの枠を超えた生き生きとした音楽は正に職人ヅで、超絶。w. Ed Boyd, Ian Stephenson, Aidan O'Rourke, John Joe Kelly, Danien O' Kane, Leon Hunt, etc. 2010 作。Singing Tree)

*TWO TAP TRIO:A Night At The Fair A

(アメリカのアイリッシュ・トリオ。メンバーは Norah Rendell [彼女はカナダ人。フルト、ウオーカル], Nathan Gourley [フィドル], Brian Miller [ギター、フズーキ]。アイリッシュ・フルトの Norah は Catherine McEvoy やリアン・パイク奏者の Mickey Dunne に教えを請い、Brian Miller は本場で腕を磨いたという。あの手この手で様々なアイリッシュを楽しませる。2010 作。Two Tap)

*LE CHEILE:Out Of The West A

(70 年代、ロンドンで結成されたアイリッシュ・ミュージック・グループ "Le Cheile" の 70 年代ロンドンのアイリッシュ・ミュージックのスモーキーな空気たっぷりの演奏はアイルランド本土の古いアイリッシュや 20 世紀初めのアイリッシュ・アメリカンのアイリッシュの味わいを発散する。2010 作。White Hart Music)

*DAN POSSUMATO:Pulling Out The Stops B

(米国のポートランドとアイルランドのクリアそしてアラスカで収録されたアイリッシュ・アコースティック奏者の D. Possumato の本作はクリアの音楽や古い世代が好きな古い音源のアイリッシュ・チューン等を自分の心の音楽のように愛情深く、しかし音楽は今日のアイリッシュのように澁刺と演奏する。w. Kevin Burke, Mick Mulcrone, Teresa Baker, Quentin Cooper, etc. 2010 作。Old Box)

*BRENDAN O' SULLIVAN:Took A Notion B

(Riverdance のフィドルの Brendan はかれこれ 30 年間フィドルを演奏し、20 年間プロ活動をしているという。彼の音楽のイメージは凄い。アイリッシュは古臭いのから泣き節、かつまたスマートなものまでばっちり演奏し、その上にブルースの曲やラテン音楽や化粧したアイリッシュなどを盛り込む。新たなアイリッシュの創作意欲と音楽のアイデアが多過ぎて、一枚の CD には収まらなかった、という印象の色とりどりのアイリッシュ。2010 作。Brendan O'Sullivan)

*WILLOS':Dirt Tracks B

(2001 年結成で、本作が五枚目というアイルランド、アメリカ、イタリアの五人編成アイリッシュ・グループ。アイリッシュはフィドルの Stephanie Martin のみで、ウオーカルの Alice Reynolds はアメリカ人で、ジャズ・ウオーカルの教師でもある。ギター & フズーキ、フルト、バウロン男性三名はイタリア人。彼らのアイリッシュは耳に新鮮。一癖ある音を加えたり、地中海サウンドを響かせたり、かと思えば、コアのアイリッシュで楽しませたりもする。w. Liz Carroll, John Doyle. 2009 作。Soundsdifferent)

*SEAN MAGEE:Ye Fiddlers Fate B

(オール・アイルランドのフィドル部門の若きチャンピオンのデビュー作。フェアナンの古い希少曲を多く含む本作はどこか涼やかな風が感じられるアイリッシュ・フィドルの快作。CD-R。2009 作。Sean Magee)

*TOMMY KEANE:The Piper's Apron a

(リアン・パイク奏者 T. Keane の 91 年作。w. Brendan O'Regan [フズーキ、ギター], Jacqueline McCarthy [コンサーティナ], Henry Benagh [フィドル], Paul

- Grant {ギター}, Tommy Hayes {ハウン}, Michael Hynes {フルト}, Mulligan)
- *FRANK HARTE: The Essential Irish Series Volume 4 A
 ("Dublin Street Songs Through Dublin City" {副題 "Traditional Songs Of The Dublin Streets"} と "There's Gangs Of Them Digging {"Songs Of Irish Labour"}" の二枚組セット。2009 作。Daisy)
- *TOMMY HAYES: An Ras a
 (再発。ハウン奏者 T. Hayes の 91 年作。w. Alasdair Fraser, Nuala Ni Dhomhnaill, Micheal O Dombhnaill, Brian Dunning, etc. Mulligan)
- *TOMMY HAYES: An Ras (英国盤。Mulligan) B
- *BRENDAN O' REGAN: A Wind Of Change a
 (再発。フスーキ、マントリン、ギター奏者の 92 年作。w. Maire Breathnach, Tommy Hayes, Gerry O' Connor, Ciaran Tourish, Alec Finn, etc. Mulligan)
- *A FEAST OF IRISH FOLK C
 (CD+DVDセット。CD は Sharon Shannon, Bothy Band, De Dannan, Mary Black, Emmylou Harris and Dolores Keane, Frank Harte, Donal Lunny & Christy Moore, Seamus Begley & Jim Murray, Danien Dempsey 等の編集盤で、全 13 曲。DVD は PAL 方式で全てライヴ映像で、Robbie O'Connell/Mick Moloney/Jimmy Keane の "Kilkelly", Mary Black/Emmylou Harris/Dolores Keane の "Sonny", Sharon Shannon & Band の "Blackbird", De Dannan の "The Humours Of Galway" の全 4 曲。2009 作。Daisy)
- *FAOI BHLATH: Faoi Bhlath C
 (2006 年に "Sheridan's Guesthouse" というアルバムを発表したフィドル奏者の Dave Sheridan とアイルリッシュ・フルト奏者の Ciaran Somers と Arcady, Orion, Kornog 等参加のフルト・ニュー人ギター/シンター奏者 Nicolas Quemener の見事なスーパーセッション。w. Johnny "Ringo" McDonagh。絶品。2009 作。Folkroads)
- *BLACKTHORN BAND: The River That Runs Below A
 (Blackthorn Band はイギリスのアイルリッシュ・グループ。メンバーは Sarah Mooney {フルト、ギター}, Philippe Barnes {フルト、ギター、ホイッスル}, Alex Percy {フィドル、ギター}, Fergus McClelland {ヴォーカル、フスーキ他}, Mannie McClelland {ヴォーカル、コンサーティナ、ハウン}。レパートリーは Noel Hill & Tony Linnane や Jackie Daly や Mary McNamara 等の演奏から学んだ曲等を清々しい演奏で楽しませる。2008 作。Hobgoblin)
- *ELEANOR SHANLEY: The Essential Irish Series Volume 3 A
 (Eleanor Shanley & Ronnie Drew "El Amor De Mi Vida" と Eleanor Shanley & Ivan Leparr "Another Day's Journey" の二枚組セット。2009 作。Daisy)
- *JACKIE DALY: Music From Sliabh Luachra ¥1790
 (Topic より紙ジャケット、リマスターにて再発。77 作。Topic)
- *JACKIE DALY: Music From Sliabh Luachra B
 (1977 年のデビュー作。Ossian {アイルランド盤})
- *JACKIE DALY: Many's A Wild Night B
 (w. Maire O'Keefe, Paul De Grae, Garry O Brian。95 作。Gael-Linn)

- *ANDY IRVINE・PAUL BRADY:Andy Irvine・Paul Brady a
 (アイルッシュ・トラッドの名盤中の名盤。アイルッシュ・トラッドを中心にした伝承歌を Andy と Paul はそれぞれベースとギターの緊張感ある絶妙な伴奏で伝承歌の世界へと誘う。ゲスト:Donal Lunny&Kevin Burke。76 作。Compass/Mulligan)
- *ANDY IRVINE・PAUL BRADY:Andy Irvine・Paul Brady B
 (76 作。Mulligan{英国盤})
- *MATT MOLLOY:Matt Molloy a
 (Produced by Donal Lunny&Micheal O Domhnaill。名盤。76 作。Compass/Mulligan)
- *MATT MOLLOY:Matt Molloy(76 作。Mulligan{英国盤}) B
 (76 作。Mulligan{英国盤})
- *MATT MOLLOY:Stoney Steps(88 作。Claddagh) B
- *MATT MOLLOY・PAUL BRADY・TOMMY PEOPLES
 :Matt Molloy・Paul Brady・Tommy Peoples B
 (78 作。Mulligan{英国盤})
- *MATT MOLLOY, SEAN KEANE, LIAM O' FLYNN:The Fire Aflame B
 (92 作。Claddagh)
- *KEVIN BURKE&MICHEAL O DOMHNAILL:Promenade a
 (w. Triona, Donal Lunny, Declan Sonnott。宝物。79 作。Compass/Mulligan)
- *KEVIN BURKE&MICHEAL O DOMHNAILL:Promenade B
 (79 作。Mulligan{英国盤})
- *KEVIN BURKE&JACKIE DALY:Eavesdropper B
 (w. Paul Brady, Philip Begley, Conal O Grada, etc. 81 作。宝物。Mulligan{英国盤})
- *MARIA McCOOL:Doagh~An Odyssey Of Irish Song B
 (北西ドノコールの Gweedore というゲール語地域の女性ゲリック・シンガーの二枚目。北ドノコールに位置する半島 Doagh をタイトルにした本作は、ゲール語による伝統歌を中心にした選曲で、アイルッシュ・ソングの美しさを損なうことなく、ナチュラルな歌唱法で美しくうたったもの。伴奏はピアノ。全 16 曲。2009 作。Ambush)
- *DONAL MURPHY:Happy Hour B
 (この Donal なるアコ奏者のデビュー作はアコパティックなアコ演奏の妙技が矢継ぎ早。ホルカ、リール、スライド、ホーンパイプ、ジグ、エア、ラグそして混ぜこぜ音楽を材料にアイルッシュ・ダンスのリズムの多彩さと愉快さを見せつける。共演者は S. Cooney, Tim Edey, Brian McGrath そして Donal の家族。まさにタイトルを裏切らないひと時が過ごせますよ。2009 作。DMR001)
- *GARRY SHANNON・ORFHLAITH NI BHRIAIN:Lose The Head A
 (Sharon Shannon の兄さんでフルト奏者の Garry と女性アイルッシュ・シンガーの Orfhlaith の 89 年作が CDR にて再発。w. Sharon Shannon, Mary Shannon, Majella Shannon, Steve Cooney, Eoin O'Neil, etc. GTD Heritage)
- *JO CHEDGEY:D' Anam Alainn C
 (アイルランド・ウォーターフォード出身の女性 SSW の Jo の本作は、アイルランドへの美しい想いが素直に唄になっていて、彼女の想いや思い出と一緒に旅す

る気分。化粧っ気なしのスツピンの唄が唄の鮮度を落とすことなく聴き手の心に沁み渡る。現在英国暮らしの Jo が、故郷を離れて輝きを増す Jo の珠玉の唄たちだ。2009 作。Osmosy)

- *KARL NESBITT:Vistapoint B
(フルート&フズキ奏者の K, Nesbitt のオーセンティックなアイリッシュからコンテンポラリーなアイリッシュまでアイリッシュを色々と料理したり、創作したりする。アイリッシュ専門のアレンジャーやサウンド・プロデューサーとして才能を有する若きクリエイターだ。Niall Connolly がガール・ボーカルの“Don't Be Blue”と John Spillane がガール・ボーカルの“Ag an gCoisir”は SSWファンには絶句の二曲。ここで聴く Niall と John の唄は同一人物のように似ている。w. John Spillane, Niall Connolly, Mairead&Sean Nesbitt, Edel McLaughlin, Marien Collins, Seamus Gibson 他。Karl Nesbitt。2009 作)
- *THE SAW DOCTORS:Live At The Melody Tent B
(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの雄、Saw Doctors のライブ・アルバム。録音は 2008 年の夏。unrigグラスの魂揺さぶるフォーク・ロック。2008 作。Shamtown)
- *THE SAW DOCTORS:All The Way From Tuam(1992 作。Shamtown) B
- *THE SAW DOCTORS:Villains?(2001。Shamtown) B
- *BUA:An Spealadoir A
(米国の大型アイリッシュ・バンド。ゲーリック・シンガーの Brian O hAirt のシンギングはヴォイス・コントロールが見事で、特に静寂な味わいのシンギングはダントツに素晴らしい。加えて、フルート、フィドル、ブズーキ、イリアンパイプス、ギター、ホイッスル、バウロン、ギターなどによるアイリッシュは天下一品。ゲスト: Deirdre Scanlan {Solás}。2008 作。Mad River)
- *MARANNA McCLOSKEY:At Last C
(Cara Dillon の前の Oige のガール・ボーカルだった Maranna の唄。Maranna は Cara 風の、ジャンルを超えて魅する透明感ある声質を持ちつつ、伝統音楽回帰的足元の確かさを持った大型アイリッシュ・シンガーだ。w. Eric Rigler {イリアン・パイプス、ホイッスル}, Brian Baynes {ギター、ピアノ、マンドリン他}, etc. 2008 作。McCloskey Music)
- *DAN MILNER
:Irish Pirate Ballads And Other Songs Of The Sea B
(アイルランド系アメリカ人で、アメリカの Frank Harte 的存在の伝統歌収集家でヴェテラン・トラッド・シンガーの D. Milner の本作にはアイルランド移民の物語のほか海賊や奴隷の歌など様々な物語が収録されている。w. Mick Moloney, John Doyle, Joanie Madden, Tim Collins, Susan McKeown, Brian Conway, Gabriel Donahue, Robbie O'Connell。P38 のブックレットには詳細バリエーションと曲目解説等が収録。2009 作。Smithsonian Folkways)
- *DENIS CAREY:Moving On C
(Brook McGuire Band のピアノ奏者で作曲家の D. Carey の 2 枚目。本作は全曲本人の自作曲だが、どれもが 17 曲を含め、アイリッシュ・ダンス曲の形式の音楽。彼の音楽性はケリー・バンド風から Riverdance 風まで、アイリッシュの土俵の上で幅が広い。そういう意味では、アイルランド人の心を揺さぶる音楽と言えよう。Mairtin O' Connor, Zoe Conway, Tommy Hayes, Paul Brock, Manus McGuire, Enda Scahill, Kenneth Rice,

Fergal Scathill 等共演者も充実で、あの手この手のアイリッシュ・ミュージックで聴き手を誘惑する。(2008 作。Five Line)

- *SEAMUS GREAGH:Tunes For Practice D
(遺作となったヴァイラン・アイリッシュ・フィドルの S. Creagh によるアイリッシュ・フィドル奏者の練習用模範フィドル演奏集。2 枚組。テンポの遅い曲調からノーマルな演奏へと徐々にテンポを上げてゆく。演奏のツボを教えるどれもが正調? アイリッシュ・フィドル節だ。チューニングの話を除き全 36トラック。2009 作。Seamus Creagh)
- *THE NAVVY'S WIFE D
(2 枚組。「人夫の妻」と題された本作は、アイルランド系イギリス人トラッド・シンガーの Mick Ryan によるフォーク・ドラマ。イギリスで鉄道や運河や道路の建設に携わったアイルランド移民の苦難や悲哀や希望や楽しみや喜びをアイリッシュやイングリッシュ・トラッドのスタイルでうたい、音楽を付けた大作。本作に参加したシンガーは M. Ryan, Jackie Oates, Paul Downes, Judy Dunlop, Heather Bradford, Roger Watson。2008 作。WildGoose)
- *LUKE PLUMB:A Splendid Notion C
(オーストラリア人でスコットランドで活躍中の Shooglenifty のマントリン奏者の Luke のソロはパーカッション奏者の James Mackintosh のサポートを得たマントリン音楽。Luke は鮮やかなマントリンの演奏で主にアイリッシュの著名伝統曲 ["Trip To Sligo", "O' Carolan's Receipt", "Sporting Nell", etc] に新たな命を吹き込んでいる。James のハウロンの音域を倍にしたようなパーカッションの自在で多彩なリズムも楽しい。2008 作。Shoogle)
- *MOLLY'S REVENGE:The Western Shore a
(John Doyle がプロデュースの本格的ケルティック・ミュージック・アルバム。アンサンブルの醍醐味と味わいはアイルランドやスコットランドのトップ・バンドの風格。ダンス曲を中心とした演奏のみならず、2 曲でヴォーカルを取る Moira Smiley のしっとりとして凜としたシンギングが素晴らしい。Paul Brady の名唱でお馴染みの "I Am A Youth Included To Ramble" はトラッド・ファンを骨抜きにする。北米に凄いバンド。2008 作。Molri Music)
- *MOYA BRENNAN:Heart Strings B
(Clannad の Moya の本作は Clannad 的優美さや夢幻さが漂うケルティック・ミュージック・アルバム。Moya のもとに集まったケルトの音楽家は、Fionan De Barra {ギター}, Cormac De Barra {ハーフ}, Paul Byrne {ハウロン、ドラムス}, Eamonn Galldubh, Sinead Madden {フィドル}, Sam Jackson {キーボード}, Yoshinobu Izumi {ベース} の 7 名。全 14トラック。2008 作。オランダ MW)
- *PAUDIE CONNORS & JOHN O'BRIEN:Wind & Reed B
(ケル出身のアコ奏者 Paudie とダブリン出身のイアン・パイプス奏者 [Mick O'Brien は John の兄] によるアコとパイプによるアイリッシュ。リズム・パートは Jim Murray が担当。事実上 J. Murray も加えたトリオの音楽。アコもパイプもよくうたい、踊る。2008 作。PBCD1976)
- *KATHLEEN BOYLE:An Gailin Rua B
(Dochas そして現在 Cherish The Ladies のアコ奏者 Kathleen のソロ。Kathleen はアイルランドのトニョールが故郷でスコットランドで育ち。トニョール中心のアイリッシュや自作のダンス曲を中心にスコティッシュの、もっともガリック・ソングやメロイなど、スコティッシュ・トラッド・ファンの琴線に触れるトラッド曲を数曲加えた構成。w. J. Fowles, H. Talbot, Jenna Reid, Ali Hutton, Kevin

- O' Neill, Martin O' Neill, Eamon Doorley, Hughie Boyle。2008 作。
Kathleen Boyle)
- *GRIANAN:The Maid Of Erin A
(スーパー・グループの Grianan の 93 年作。メンバーは P. J. King に Tommy Peoples, Siobhan Peoples, Paul McSherry, Kevin Crawford, Martin Murray, Pat Marsh, John Maloney そしてダブリンのゲリラック・シンガーの Niamh De Burca。余裕綽々の愁いを含みつつ、勢いのあるアイルッシュにただただ酔うのみ。Niamh De Burca の英語一曲、ゲール語一曲の清涼なシンキングは芳香を放っている。93 作。CDR。West Winds)
- *BILLY McCOMISKEY:Outside The Box a
(こどもの頃から近所のアイルッシュ・センターでアイルッシュ・ミュージックに親しんで育ったヴァイオリン・ボタン・アコーディオン奏者の Brian II {1995 年} 以来の新作。w. John Doyle {プロデューサーでもある}, Liz Carroll, Joannie Madden, Athena Tergis, Mick Maloney, etc. 2008 作。Compass)
- *MARK DUNLOP:Islands On The Moon C
(アイルランドの Antrim 生まれでスコティッシュ・トラッド・バンドの Malinky のシンガー兼ホイッスル&バウロン奏者の M. Dunlop の初作。2008 作。Greentrax)
- *JIMMY DINNY O GALLCHOIR:Scal Ag Gabhail Don Cheol D
(1921 年ドニゴール生まれのゲリラック・シンガーの 1950 年代と 1970 年代の音源の曲に、数曲、Altan の Mairead に Manus Lunny, Stephen Campbell が重ね録りしてお化粧をして編集された 9 曲入。2008 作。
Clo Iar-Chonnachta)
- *THE GATHERING A
(ライヴ。Martin Hayes, Andy Cutting, Karen Tweed, Carlos Nunez, Kathryn Tickell, Brendan Power, Niall Keegan, Alisdair Fraser, etc. 97 作。Real World)
- *MUSIC AT MATT MOLLOY'S(92 作。Real World) A
- *JOSIE SHEAIN JEAIC:Connemara~Sean-nos(Cinq Planetes) C
- *MATT GRANITCH:Give It Shtick B
(w. Dave Hennessy, Eoin O Riabhaigh, Brid Cranitch, Mick Daly, Colm Murphy。88/92 作。Ossian)
- *MANUS McGUIRE:Fiddlewings(2006 作。Shelly River Music) B
- *KEVIN BURKE:If The Cap Fits a
(紙ジャケット、リマスターにて再発。w. Micheal O Domhnaill, Paul Brady, Donal Lunny, Jackie Daly, Peter Browne, Gerry O' Beirne。78 作。Compass/Mulligan)
- *BOTHY BAND:1975 (77 作。Compass/Mulliagn) a
- *BOTHY BAND:Out Of The Wind Into The Sun a
(77 作。Compass/Mulliagn)
- *BOTHY BAND
:Old Hag You Have Killed Me(76 作。Compass/Mulligan) a
- *BOTHY BAND:Afterhours(78 作。Compass/Mulligan) a
- *JAMIE SMITH, COLETTE O' LEARY & BRIAN KELLY
:The Long Notes B
(ハンゾーとマンドリンのオール・アイルランド・チャンピオンの Brian Kelly に Bumblebees のアコーディオン奏者の Colette O' Leary にスコティッシュ・フィドル奏者の

Jamie Smith の今ロンドンで活動する 3 人組。Sharon Shannon と Lunasa が大推薦。2008 作。The Long Notes)

- *DAMIEN DEMPSEY: The Rocky Road B
(パラットが自分のルーツと言うアイリッシュ・フォーク・シンガーの Damien の本作は彼が 1990 年代にダブリン周辺のパブで良くうたったというトラットの名曲やパブで人気だった唄をうたったもの。w. Sharon Shannon, Eamonn DeBarra, John McLoughlin 他。2008 作。Clear)
- *STEPHANIE MAKEM & TIARNAN O DUINNCHINN: Ceol Is Piob B
(素晴らしい女性ゲリラック・トラット・シンガーの Stephanie とイアン・パイブの Tiarnan のお二人によるゲリラック・ソングとパイブ演奏。w. Steve Cooney {ギター他}, Paul Meehan {ギター}, Feargal Murray {キーボード}。Tommy Peoples が推薦名文を寄せている。CB001)
- *PAUL McGLINCHY: Unearthed B
(1990 年代に 3 度オール・アイルランドのフルート部門チャンピオンの座に輝くタイロンのフルート奏者 P. McGlinchey の見事なフルート・ソロ。ロスカモンズのフルート奏者 Josie McDermott 作のリアル曲で軽快に幕開けする本作はアイリッシュ・フルートのマジックとでも呼びたい演奏の早業で、軽快さと鮮やかさで唸らせる。アイリッシュ・フルートの名盤中の名盤。2008 作。PMG001)
- *FRANK CASSIDY: Nil Gar Ann B
(副題“Traditional Fiddle Music From Donegal”。1900 年トニコール生まれ {1971 年没} のフィドル奏者 F. Cassidy の 1946~67 年の貴重音源から 35トラック。2008 作。CNF)
- *BEN LENNON & TONY O'CONNELL: Rossinver Braes C
(Lennon Family のグェラン・フィドル奏者の B. Lennon とリリック出身でオール・アイルランドのコンサティーナ・チャンピオンのコンサティーナ奏者の T. O'Connell のデュオアルバム。2008 作。Clo Iar-Chonnachta)
- *DARREN GROSSEY: Coming Home ¥2090
(アメリカ New Folk から発売されたアイルランド系フォーク・シンガーの 2003 年作。Christy Moore や Barry Moore 等のアイリッシュ・フォークやトラット曲を Moore 兄弟タイプ of フォーク調で唄う。面白いのは大半の曲で唄とハモルように入っている Sean Conway のティン・ホイッスル。変拍子多彩で、空翔けるホイッスルの音色に心も飛ぶ。Sean Conway のティン・ホイッスルだけでも聴く価値あり。2003 作。New Folk)
- *ACROSS THE WATER C
(旧譜。“Irish Music From England”。1994 年のヨーク大学 Traditional Music Festival でのライヴ。演奏は Andy Cutting, Brendan Ring, Karen Tweed, Julia Clifford, John Carty, Brian Rooney, Luke Daniels, Niall Keegan 他。全 20トラック。94 作。Nimbus)
- *DEAR OLD ERIN'S ISLE C
(旧譜。“Irish Music From America”。1992 年のヨーク大学 Traditional Music Festival でのライヴ。演奏は Kevin Burke, Eileen Ivers, Seamus Egan, Liz Carroll, Jimmy Keane, John Williams, Tom Doherty, Seamus Connolly, Brendan Mulvihill, Billy McGonisky 他。全 20トラック。92 作。Nimbus)
- *FIL CAMPBELL: Songbirds B
(RTE 制作の 5 人の女性シンガー - {Delia Murphy, Bridie Gallagher,

Margaret Barry, Mary O' Hara}の人生のドキュメンタリー・テレビ番組
"Songbirds~The First Ladies Of Irish Song"からトラッドの名曲
中心の15曲。w. Sean Keane, Tommy Sands, Steve Cooney, Laoise
Kelly, Rod McVey, Bill Shanley, Steve Wickham, etc. 2005作。
Glenshee)

*SEAN TYRRELL: The Best Of... B
("The Orchard"や"Cry Of A Dreamer"等名作を発表してきたSSWの
中のSSWのS. Tyrrellの14曲中半分が新録のベスト盤。2004作。
ARC Music)

*COLM O' DONNELL: Heart Strings ¥1500
(スライターの名トラッド・シンガーColm O' Donnellの2枚目はトラッドに限ら
ず、何とV. Morrisonの"Irish Heartbeat"やHank Williamsの"The
Singing Waterfall"等も含むタイトル通り"琴線に触れる"愛唱歌集。
全13曲。w. Nollaig Casey, Mellisa Elliotte, etc. 2001作。Sound)

*TEAC A BLOC B
(副題"Music From The Show"。同タイトルのショーの音楽だが、これが馬鹿
にできない。Danuのアコ奏者のBenny McCarthyにPat Ryan{フィドル}、
John Nugent{ギター}、Des Dillon{ハーモニカ}によるショーの音楽{ゲリラックソ
ング1曲と英語の唄1曲を含む}はダンサブルでわくわくするアイルッシュ。
BennyのアコとDesのハーモニカが本当に楽しい。2004作。Openear)

*BOHOLA: Bohola a
(Jimmy Keane{アコ}、Sean Cleland{フィドル、ヴァイオリン}、Pat Broaders{フ
ズ・キ、ヴォーカル}から成るシカゴのBoholaの2002年作。Shanachie)

*TAKUJI TAMURA & YUKIO KASHIWAGI: Strange But True ¥2380
(夕は日本人アイルランド音楽家の中でアイルランドのトップ・プレイヤーと同じ目
線で評価できる数少ないアイルランド音楽演奏家だ。Anders Trabjerg
との2004年作の"For The Same Reason"も素晴らしかったが、ギタ
ー、フズ・キ{フィドルも}奏者のY. Kashiwagiとの本作はアイルッシュ・フィドル・
ミュージックの芸術の域を感じさせるもの。アイルランド音楽の心を弓一本
でここまで演奏できる音楽家はアイルランドにもそうはいない。感動覚
めやらず...。2007作。Takuji Tamura&Yukio Kashiwagi)&

*FRANKIE GAVIN, RICK EPPING & TIM EDEY
: Jigging The Blues a
(F. Gavinの今度のお楽しみ会はF. Gavin主宰のアイルッシュ・ミュージック・パ
ーティーにブルース・ハープ奏者のR. Eppingが殴りこみ?した印象。パ
ーティーは大盛況。二人の盛り上がりをあの手この手で支えるT. Edeyのギ
ターの技も聴きもの。ギターにだけ耳を傾けても楽しい。F. Gavinはま
だしばらくはアイルッシュの未踏のハイウェイを突き進めそう。2008作。
Greentrax)

*FRANKIE GAVIN・PAUL BROCK: Omos Do Joe Cooley B
(英題"A Tribute To Joe Cooley"。1986作。Gael-Linn)

*JIM McKILLOP: Tribute C
(父親のJohn McKillopに捧げたホーンパイプと亡きJohn Cunninghamの
霊に捧げた"John Cunningham's Farewell"のメドレーで幕開けするフ
ィドルの巨匠Jimの本作はアイルッシュとスコットランドを中心にハンガリーのダンス曲
やRy Cooderに捧げた"Yellow Roses"など様々なスタイルの演奏で

- 楽しませる。一曲一曲が Jim の思い出の曲。全 30 曲で 23 トラック。w. Pat Conroy, James Quinn. 2007 作。The Online Music School)
- *CORA SMYTH: Are We There Yet? B
(Lunasa の Sean Smyth の妹で "Lord Of The Dance", "Feet Of Flames", "Celtic Tiger" のフイドル奏者の Cora の本作は色彩感あるアイリッシュ・フイドル・ミュージックかな。2008 作。W. EDGE1)
- *ARMAGH PIPERS CLUB "40th Anniversary Album" D
(2 枚組 CD。上記ハーパー・クラブの 40 周年記念アルバム。ディスク 1 が 21 トラック、ディスク 2 が 20 トラックの計 41 トラック収録。奏者は Brian Finnegan, Cillian Vallely, Niall Vallely, Barry Kerr, Martin Meehan, Leo McCann, Gaoimhin Vallely [プロデューサーでもある] 他。P16 のブックレット付。2007 作。Armagh Pipers Club)
- *SARAH McQUAID: When Two Lovers Meet C
(英国で人気が高まってめでたく再発。アイリッシュ・ギターでシンガーの Sarah の本作を改めて聴くとトラッド・シンガーとして優美な芳香を醸していて、うっとり。w. Niamh Parsons, Trevor Hutchinson, Gerry O'Beirne, John McSherry, Rod McVoey, etc. 97 作。Sarah McQuaid)
- *BILL WHELAN: The Connemara Suite B
(全曲 Riverdance の作曲家の Bill Whelan の作曲。演奏は Irish Chamber Orchestra とソリストで参加する Zoe Conway [フイドル], Colin Dunne [ダンス・パーカッション], Michelle Mulcahy [ハーフ], Morgan Crowley [ヴォーカル&リルティング], Bill Whelan [リルティング] による音楽。チェンバー・オーケストラの音楽の中に伝統音楽を組み込んだ壮大なコネマラ組曲。2007 作。Tara)
- *BOYS OF THE LOUGH: Midwinter Live A
(Cathal McConnell, Dave Richardson, Brendan Begley, Malcolm Stitt, Kevin Henderson から成る Boys による 2006 年 12 月のクリスマス〜冬のムードいっぱい心温まるライブ盤。全 15 トラック。2007 作。Lough)
- *GRANNE HAMBLY: Golden Lights And Green Shadow C
(アイリッシュ・ハーフの第一人者。2003 作。Klang Welten)
- *GRANNE HAMBLY: Between The Showers C
(アイリッシュ・ハーフの第一人者。2005 作。Granne Hambly)
- *GRANNE HAMBLY: The Thorn Tree C
(アイリッシュ・ハーフの第一人者。2006 作。Granne Hambly)
- *JANET HARBISON AND THE IRISH HARP ORCHESTRA
: A Christmas Collection A
(多くのアイリッシュ・ハーフ奏者を世に送り出している Janet Harbison の門下生オーケストラとゲストによるクリスマス音楽を中心にした厳かで華やかなクリスマス音楽会的音楽。ハーフ・アンサンブルのみならず、ハーフ伴奏による女性ギター・ソングやオール・アイルランド・チャンピオン若手パイプ奏者やフイドル奏者もフィーチャーし、アイリッシュ・ミュージックの魅力を網羅的に展開する。ある種 Chieftains 的。全 16 トラック。2006 作。Janet Harbison)
- *SHARON SHANNON: Spellbound a
(未発表音源 6 曲を含む 21 曲入編集 CD。98 作。Grapevine)
- *SHARON, GAVIN, McGOLDRICK, MURRAY: Tunes B
(アイリッシュの達人達による見事なセッション集。皆が帰るべき音楽の土俵の

の上で伸び伸びとアイリッシュ。実はグループの要はパーカッションなギターで熱風を浴びせるギターの Jim Murray。2005 作。Daisy)

- *FRANK HARTE:Daybreak And A Candle-End B
(Accompanied and produced by Donal Lunny.87 作。FoeTain)
- *FRANK HARTE&DONAL LUNNY:My Name Is Napoleon Bonaparte A
(F. Harte&D. Lunny のナポレオンにまつわるバラッド集。2 枚組で全 26 曲。
音楽自体は素朴で、バラッドの魅力がそのまま味わえる仕上がり。
P54 の解説書付。価値ある労作。2001 作。Hummingbird)
- *THE LIFE AND WORKS OF W. B. YEATS D
(2 枚組。read by Jim Norton, Denys Hawthorne, Nicholas Boulton
and Marcella Riordan.2002 作。Naxos)
- *TIM DENNEHY:A Thimbleful Of Song(96 作。Sceiling) B
- *TIM DENNEHY:The Blue Green Door(2002 作。Sceiling) B
- *JAMES KELLY, PADDY O' BRIEN, DAITHI SPROULE
:Traditional Music Of Ireland(95 作。Shanachie) a
- *BRIAN McNAMARA:Fort Of The Jewels C
(ご存知リトリムの伝統音楽一家 McNamara Family のイアン・ハイプス奏者の
抜群のヨ。今現在彼ほどアイリッシュ・スピリット高く、体に染み込んだと
しか思えない自然な抑揚を保持したリズム感で、この魂ある楽器を
演奏できる奏者はいない。イアン・ハイプス・アルバム最高峰。2004 作。
Drumlin)
- *GERRY O' CONNOR:Time To Time a
(4 Men&A Dog のアイルランド屈指のバンジョー奏者のヨ。w. Bill Whelan,
Brendan O' Regan, Tommy Hayes, Mairtin O' Connor, Steve Cooney,
Camilla Dorsey, Maunus Lunny。CD-R.91 作。Mulligan)
- *TOMMIE CUNNIFFE:Unbuttoned C
(ロスマン出身のアコ奏者のデビュー作。クリアとゴールウェイ近辺の曲が多いが、
初めて聴く Tommie のアコはテクニックのことは解らないが、飛び跳ねるリ
ズムの一音一音が絶え間のないメロディーとなって気持ちよく滑空す
る。楽器は違うがコンサーティナの Micheal O Raghallaigh やホイッスルの
Brian Hughes くらい一人職人芸。2007 作。TommiECunniffe)
- *LORCAN MacMATHUNA:Rogaire Dubh B
(素晴らしいシャン・ノース・シンキング・アルバム。今日の伝統志向の極上のアイリ
ッシュ・サウンドをシャン・ノースに採り入れ、ある種芸術的で、彼独自の繊細で
叙情的なシャン・ノース・シンキングの世界を創作。w. Helen Lyons {ハープ},
Caoimhin O Raghallaigh {フイドル、ホイッスル}, Mick O' Brien {イアン・ハイ
プス}, Conor Lyons {ハウロン}, Jane Hughes {チェロ}。2007 作。Lorcan)
- *SHAY MICHAEL&MARTIN BLACK:What A Time B
(ゲスト:Mary Black。95 作。Dara)
- *GIORRAIONN BEIRT BOTHER:Giorraionn Beirt Bother B
(ウォーターフォードのゲールハト地区のミュージシャンとシンガーによる健やかなアイリ
ッシュ・セッションとシンキング。セッションの合間で、ゲールック・シンガーの Aine Ui
Cheallaigh や Clancy Brothers の Liam Clancy が素晴らしいゲールック・シン
キングを披露。CDR。2006 作。Iontaisi)
- *JIMMY CROWLEY:The Boys Of Fairhill C
(コークのトラット・シンガーでブラス奏者 J. Crowley の 77 年作 {原盤 Mulligan})

- が CD 復刻。w. Chris Twomey, Johnny Murphy, Mick Murphy, Jolyon Jackson, Micheal O Domhnaill。Produced by Micheal O Domhnaill。77 作。CDCR001)
- *JIMMY CROWLEY&STOKERS LODGE: Camp House Ballads C
(コークのトラッド・シンガーでブラス・キ奏者 J. Crowley の 79 年作 {原盤 Mulligan} が CD 復刻。Christy Twomey, Johnny Murphy, Mick Murphy, Eoin O Riabhaigh, Micheal O Domhnaill, Greg Walsh, Philip Begley。Produced by Micheal O Domhnaill。CDCD002)
- *JIMMY CROWLEY: Some Things Never Change C
(コークのトラッド・シンガーでブラス・キ奏者 J. Crowley の 81 年作 {原盤 Mulligan} が CD 復刻。Bill Whelan, Brian Galnan, Christy Moore, Declan Sinnott, Des Moore, Dessie Reynolds, Eamonn Campbell, Keith Donald, Mandy Murphy, Mick Hanly, Philip Begley, Tommy McCarthy, etc. Produced by Bill Whelan。CDCR003)
- *CHRISTY O' LEARY: The Northern Bridge C
(副題 "Songs & Tunes From Ireland and Scandinavia"。w. Tim O'Leary, Maire Ni Chathasaigh, Chris Newman, Richard Curran。97 作。Old Bridge Music)
- *LIVE RECORDINGS FROM THE WILLIAM KENNEDY PIPING FESTIVAL (2000 作。William Kennedy Piping Festival) C
- *JESSE SMITH: Jesse Smith (Jesse Smith) C
- *TOMMY HAYES: An Ras (91 作。Mulligan) C
- *GERALDINE MacGOWAN & FRIENDS: Reconciliation。94 作。CBM)
- *SEAN McALOON: Stor Piobaireachta C
("Piping From The Archives ~ 1"。Na Piobairi Uilleann)
- *WHITE RAVEN: The Water Is Wide C
(Kathleen Dineen {ソプラノ、ハーフ}、Robert Getchell {テナー}、Raitis Grigalis {バリトン} の女性一名と男性二名のヴォーカル・トリオ "White Raven" の 1 枚目はシャン・ノースを含む伝承歌中心の選曲と Kathleen の清楚な美声が光る厳かで雅なヴォーカル・アルバム。2005 作。Blasker Music)
- *RON KAVANA: Irish Ways ¥5780
(CDブック型 4 枚組。副題 "The Story Of Ireland In Song, Music And Poetry"。6 年以上かけて R. Kavana が編纂したアイルランドの古代から今日までの歩みを歌や音楽や詩等で辿ったアイルランドの音楽と歴史の CD と本。122ページの本は紀元前 9000 年から 2006 年までのアイルランドの年表付。2007 作。Proper)
- *KATHLEEN O' SULLIVAN: Born On St Patricks Day A
(London Lasses の 2 代目魅惑のシンガーの Kathleen の無伴奏ソロ。家庭でアリッシュ・トラッド / バラッドに親しむ恵まれた環境もあって選曲の豊かさと共に Kathleen のシンギングは他の新人アリッシュ・シンガーを寄せ付けぬほど、柔らかにコーシガが利いて美しく、芯があり孤高。曲目解説付。2003 作。Lo La)
- *SEAN O SE: Irish Heritage B
(w. Davy Spillane, Nollaig Casey, Donal Lunny, Des Moore, Niall Martin, Enda Walsh。Outlet)
- *CRUINNIU: Live In Corofin B

- (CDR。2005年に結成されたという若き7人組〔女性3名と男性4名〕
トラッド・バンドのフレッシュなデビュー作。2006年3月に開かれた Corofin
Traditional Festival でのライブ盤。2006作。RRCD003)
- *NORTH GREGG: And They Danced All Night A
(コークのバリバリのアイリッシュ・トラッド・バンド。Sliabh Luachra のホムル数曲等
C. Leary のアコをカメにセッションで鍛えたライブ感とジャンプ力ある演奏で
釘づけにする。Produced by Niall Valley。99作。Magnetic)
- *THE MAPLE LEAF: The Maple Leaf A
(副題“Irish Traditional Music From Boston”。Jimmy Noonan〔フル
ート〕, Chris McGrath〔フィドル〕, Michael Sharrock〔ブラスキー〕, Ted
Davis〔ギター〕のトリオ。2001作。Windjam)
- *MOZAIK: Live From The Powerhouse C
(Andy Irvine, Donal Lunny, Bruce Molsky, Nikola Parov, Rens Van
Der Zalm から成るスーパー・グループ Mozaik のデビュー作は 2002 年オーストラ
リアでのライブ。2004 作。Hummingbird)
- *ANDY IRVINE: Rude Awakening (91 作。Green Linnet) a
- *ANDY IRVINE: Way Out Yonder A
(旅するフォーク・シンガー Andy の感性の瑞々しさが発揮された静かな大傑
作。w. Steve Cooney, Liam O'Flynn, Rens van der Zalm, Maire &
Cormac Breatnach, Declan Masterson, etc. 2000 作。AK)
- *SKYLARK: Light And Shade (92 作。Claddagh) A
- *MAIRE WALSH: The Red Box B
(2003 年と 2004 年のアコーディオンのオール・アイルランド・チャン
ピオン。ダンス曲を中心にした選曲で、確かなリズムに裏打ちされ
演奏は、酸いも甘いも知ったヴェテラン・アコ奏者の余裕さえ感じ
させる。2005 作。Owenglen)
- *DAVY SPILLANE: Shadow Hunter (90 作。Tara) B
- *DERVISH: Live At Johnny Fox's A
(全 14 曲。初期 Dervish のパブでの名ライブ。2006 作。Doonaree)
- *DERVISH: The Boys Of Sligo (デビュー作。Sound) C
- *CIARAN MacMATHUNA'S THE TOUCH OF THE MASTER'S HAND C
(数十年間、RTEラジオの人気番組“Mo Cheol Thu”の詩の朗読とアイリッ
シュ・トラッドがセットの音楽を 16トラック収録の編集 CD。静かに詩の朗読と音
楽に耳をお傾け下さい。ラストはクリスマスの詩と音楽。音楽は Dordan,
Liam O'Flynn, Paddy Glackin with Donal Lunny, Rita Connolly,
Josie McDermott, Kieran Collins, Aine Ni Dhuill, etc. 1995
/2005 作。RTE)
- *SEAN SMYTH: The Blue Fiddle a
(Lunasa の Sean のソロ。w. Brenda Smyth, Cora Smith, Vinnie Kilduff
, Steve Cooney, Jim Higgins, Charlie Lennon, Mairtin O' Connor
, Brendan O'Regan, etc. 93 作。Mulligan)
- *THE VERY BEST OF IRISH LOVE SONGS ¥3000
(3 枚組セット。48 曲入。2003 作。Pegasas)
- *PADRAIGIN NI UALLACHAIN: Ailleacht (Beauty) A
(アイルランドのヴェテラン・トラッド・シンガーの Padraigin 女史
の本作はゲールによる自作曲集。歴史ロマンや空想的物語等で伝承

- 歌の美しい薫りを追求したかのような至福のゲリック・ソング・アルバム。w. Iarla O Lionaird, Steve Cooney, Laoise Kelly, etc. ゲール語原詞&歌詞英訳&曲目解説付。2005 作。Gael-Linn)
- *IARLA O LIONAIRD: Invisible Fields ¥1500
(ゲール語の唄の神秘性や叙情性や情感を 高揚した意識の中で抽出し、Iarla 流の純粹性の高いゲール語の結晶音楽を創作し続ける Iarla だが、本 3 枚目はその結晶度がかつてなく高い。Iarla にしか創作できない独自のゲリック・ソングの世界だ。2005 作。Real World)
- *OSNA: Osna (99 作。Celtic Note) B
- *SEAN O RIADA: Ceol An Aifrin/Aifreann 2 D
(Sean O Riada の“Ceol An Aifrin”{69 年作}と“Aifreann 2”{70 年作}がデジタル・リマスターにて再発。特殊パッケージ。69/70/2005 作。Gael-Linn)
- *CLANNAD: Beginnings A
(“The Best Of The Early Years”。クラドの初期音源からの 2 枚組編集 CD。全 31 曲。贈り物用かな?2008 作。Music Club)
- *CLANNAD: Magical Ring ¥1500
(ボーナス曲 1 曲含む 11 曲入。特殊パッケージ。83/2003 作。BMG)
- *CLANNAD: In A Lifetime C
(ボーナス曲 8 曲付 2 枚組ベスト盤。全 26 曲。2003 作。BMG)
- *ENYA: The Celts (87 作。WEA) ¥1780
- *ENYA: Watermark (88 作。WEA) ¥1780
- *SINEAD LOHAN: No Mermaid (1998 作。Grapevine) ¥1780
- *FINBAR&EDDIE FUREY: The Dawning Of The Day ¥1780
(先駆的アイルッシュ・トラッド・グループの 68~72 年の音源からの編集 CD。全 20 曲。今聴いても鮮烈。Planxty の先輩格。98 作。Castle)
- *HECTOR ZAZOU: Lights In The Dark C
(ラーサーナ・ファン必聴。ラーサーナに加え、リヴァースのリスト、Katie McMahon、ジャン・ノース・シガーであり SSW の Brenda Mayor の女性ゲリック・ヴォーカル・トリオによるケルトの深き神秘性漂う絶句のアルバム。霊的なものさえ覚える奥深いサウンドと心奪われる魅惑の女性シンキングだ。本作のテーマは「アイルランド 聖歌の起源を探る旅。w. 坂本龍一, Carlos Nunez, Peter Gabriel, Kristen Nogue, Thierry Robin, Hossam Ramzay, etc. 98 作。フランス Detour)
- *BRINGING IT ALL BACK HOME D
(ご存知 91 年 BBC 制作 TV documentary のサウンド CD で原盤に未発表曲 3 曲加えた 36 曲収録の 2 枚組。Donal Lunny, Dolores Keane, Hothouse Flowers, Emmylou Harris, Mary Black, Sharon Shannon, Paul Brady, Mary Custy, Luka Bloom, Davy Spillane, Elvis Costello, Micheal O Suilleabhain, Richard Thompson, Waterboys and more! 91/2000 作。Hummingbird)
- *SEAN KEANE: All Heart No Roses (93 作。CBM) C
- *SARAH&RITA KEANE: Once I Loved B
(ご存知 Dolores Keane の叔母の Sarah&Rita のデビュー作がめでたく CD 復刻。姉妹のソロとユニゾンで唄われる北東コルウェイ地方のゲール語を含む伝承歌の数々は聴けば聴くほど味わいのある名唱ばかり。

- "Sail Og Rua"他全 11 曲。不滅の名盤。69/2006 作。Claddagh)
- *DOLORES KEANE:There Was A Maid(78 作。Claddagh) B
- *DOLORES KEANE&JOHN FAULKNER
:Broken Hearted I'll Wander(79 作。Mulligan) C
- *DOLORES KEANE&JOHN FAULKNER
:Farewell To Eirinn(80 作。トイWundertute) C
- *DE DANNAN:Hiberinian Rhapsody(96 作。Shanachie) a
- *DE DANNAN>Welcome To The Hotel Connemara B
(2000 作。Hummingbird)
- *ALEC FINN:Blue Shamrock A
(廃盤。テ・ダナンのオリジナル・メンバーで屈指のフス・キ奏者による唯一のソロ。フス・キとティン・ホイッスルとのデュエットによるアイルランド哀愁のメロディー集。
"Sally Garden", "The Water Is Wide"ほか全 10 曲。94 作。CBM)
- *SEAN CANNON:The Roving Journey Man D
(70 年代アイルランド・トラッドの名盤。エイツを含むアイルランド・ソングの甘みは格別。77 作。Kissing Spell)
- *DEREK BELL:Carolan's Receipt(75 作。Claddagh) A
- *DEREK BELL:Musical Ireland(83 作。Claddagh) A
- *KATHLEEN LOUGHNANE:Harping On B
(今のアイルランドで彼女ほど伝統的アイルランドのハープの奏法を継承し、様々なダンス曲やオケラソや 17-18 世紀のハープ曲を新鮮なアレンジで愛情深く演奏できるハープ奏者はいないだろう。w. Alec Finn, Sean Ryan, Cormac Cannon, Sharon Shannon, Seamus Begley{1 曲素晴らしいノドを披露}, Mary Bergin, Jacqueline McCarthy, Martina Goggin, etc. 2002 作。Reiskmore Music)
- *KATHLEEN LOUGHNANE:Harp To Heart B
(3 枚目。ハンティング・コレクションからのハープ曲と伝承曲からの 15 曲。彼女は独自のアレンジでハープ・ミュージックの定番一曲一曲に息を吹き込むようにスピリット高く、愉快地に上品に厳かに蘇生する。アイルランド・ハープの傑作。w. Alec Finn, Cormac Cannon. 2005 作。Reiskmore Music)
- *ANNE-MARIE O' FARRELL・CORMAC DE BARRA:Double Strung C
(もう長年コンビを組んで活動しているクラシック・ハープ・スタイルの名アイルランド・ハープ奏者の Ann-Marie と伝統的アイルランド・ハープ・スタイルの名アイルランド・ハープ奏者の Cormac のハープ・デュエット・アルバム。卓越した両名ハープ奏者が編み上げた音楽は当然格別。選曲にはクラシックの曲も含まれている。一歩先を行くハープ音楽。2005 作)
- *DAVID MUNNELLY:Swing... B
(w. Sharon Shannon, Gavin Ralston, y, Andrew Murray, etc. 2001 作。Hummingbird)
- *DECLAN MASTERSON:Heartland B
(Moving Hearts や Riverdance のハープ奏者で Andy Irvine と Mosaic や Patrick Street に参加のアイルランドを代表するイアン・ハープ奏者のすっぴんのアイルランドから Moving Hearts 風フォーク・ロックから Riverdance 風アイルランドと東欧音楽の融合音楽まで彼の幅広い音楽性が発揮されたカラフルでエキゾチックなイアン・ハープ音楽。FRCD05)
- *NIALL O CALLANAIN:Strings&Things C

- (アコースティック&エレクトリック・ブラス奏者による多彩なアイリッシュ。w. Maire Bratnach, Mairtin O' Connor, Kevin Shields, Mario Ngoma。2001作?Peer Music)
- *TEADA: Ceol & Cuimhne a
(彼らはアイリッシュの魔法使い。ゲスト: Grainne Hambly。2010年アイリッシュのベスト・アルバム当確。2010作。Compass)
- *MAIREAD NI MHAONAIGH & FRANKIE KENNEDY: Ceol Aduaidh B
(デジタル・リマスター、デジタル・パック{紙ジャケット}83作。Gael Linn)
- *GAY, CONOR&SEAN McKEON: The Dusty Miller C
(Leo Rowsomeを師とする名ヴァイオリン・プレイヤー奏者のGay McKeonに彼の二人の息子で共にヴァイオリン・プレイヤー奏者のConorとSeanも加わったトリオ名義の本作実に豪快なヴァイオリン・プレイヤー音楽だ。しかもそこにArty McGlynnが熱のこもったギターで熱風を注ぐ。アイリッシュ・プレイヤー・ミュージックの真髓。2005作。CDGMCK002)
- *JOHN O'CONNELL: The Maid Of Ballingarry A
(60~70年代に“Singing Session”で活躍したというシュリー・ゲル・クラのトラッド・シンガーの本作はSeamus MacMathunaとDiane Hamiltonのコレクションを音源に編集されたJohn O' Connorの無伴奏トラッド集。全15曲。彼のレパートリーは三つのカテゴリに分類できるという。一つは地方の歌。これは一般的にユーモラス。二つ目はその他のユーモラスな歌で大部分が元気のいい歌。そして三つ目は伝統的スタイルのかしこまった歌。「トラッド・シンギングの最重要作」と評判。P12のブックレット付。ED001)
- *BARRY GLEESON: I Heard A Bird Dawn ¥700
(イギリスならフォーククラブの音楽。ヴァイオリン・フォーク・シンガーのBarryは気心の知れた音楽仲間とあるいはソで様々なバラッドやコミカルな唄そしてイェイツやジョイスの詩や歌等を朗々とまた愉快地にまたお上品に唄ったりする。Kevin Conneffのバウロンの伴奏で見事なシン・ノースを披露もする。これぞアイリッシュ!の大衆歌手だ。P20のブックレット付。2005作。Gleeman)
- *WITHIN A MILE OF KILTY C
(フェアマとの県境のリトウラムの北部の町Kiltyclogherは人口約150人の小さな町。この町に集う名うてのワイド・レー達6名{John Gordon, Ben Lennon, Charlie Lennon, Brian Rooney, Maurice Lennon, Seamus Quinn}の過去40年以上の間の音源からの編集CD。それぞれが凛として個性的。Stockton's WingのMauriceのみヴァイオリンの演奏で独特な風合いのアイリッシュで楽しませる。2005作。Clo Iar-Chonnacta)
- *ANDREW MURRAY: Hell Or High Water C
(De Danannでヴォーカルを担当したことがあるというインシュボ・フィン島出身の唄が物凄く上手いシンガーのデビュー作。トラッドの名曲とSSWの唄がほぼ半々。それぞれの物語性のある唄をいいソで朗々とうたう。唄に結構痺れる深さとコクがある。w. Gavin Raiston, Aogan Lynch, Geoff Woods, Tim O'Brien, etc. 2005作。Andrew Murray)
- *DANU: Think Before You Think (傑作。2000作。Shanachie) a
- *DANU: All Things Considered a
(アイリッシュ・トラッドの最高傑作の一枚。2002作。Shanachie)
- *DANU: The Road Less Traveled a
(アイリッシュ・トラッドの最高傑作の一枚。2003作。Shanachie)

- *DANU:Up In The Air(2004 作。Shanachie) a
- *SEAN DOYLE:The Light And The Half-Light a
 (元 Solas の John Doyle のソで素晴らしいソを披露していた John のお父さんのアイリッシュ・フォーク・ソング・スピリット漲る味わい深きソ。John Doyle のギター&ウオーガを筆頭に Liz Carroll, John Williams, Emer Mayock, Dirk Powell 他の控え目の伴奏がまた泣かせるほど見事。全 15 曲。2004 作。Compass)
- *BEGINISH:Beginish B
 (Paul O' Shaughnessy, Paul McGrattan, Brendan Begley, Noel O' Grady。ゲスト:Maighread&Triona Ni Dhomhnaill, Arty McGlynn, Colm Murphy。98 作。Tara)
- *VINNIE KILDUFF:The Boys From The Blue Hill a
 (ティン・ホイッスルの代表作。w. Charlie Lennon, Steve Cooney, Brendan O' Regan, Gerry O' Connor, Tommy Hayes, Seamus Begley, Cora&Breda Smyth。90 作。Mulligan)
- *DESI DONNELL&MICHAEL McGOLDRICK
 :Champions Of The North(Magnetic Music) C
- *PAUL McGRATTAN&PAUL O' SHAUGHNESSY
 :Within A Mile Of Dublin B
 (元 Altan で現 Beginish のフィドル奏者 P. O' Shaughnessy とトニコール・スタイルの彼の演奏に魅了された屈指のフルート奏者 P. McGrattan のあうんの呼吸に唸られるフィドルとフルートのデュエット。95 作。FoeTain)
- *HORSLIPS:Roll Back ¥3290
 (2 枚組ボックスCD。1 枚目はスタジオ録音で 15 曲入。2 枚目はライブ録音で 4 曲とそのライブ映像。久し振りの Horslips は何か丸くなったというか、70 年代の熱っぽさはなくなったが、煮込み味な洪さとコクが備わった。歳相応に熟したフォーク・ロック。2004 作。Horslips)
- *JIM MacFARLAND:A Taste Of Tradition C
 (ウエーランド・トラッド・ソングのソ。ギター伴奏{本人の演奏なら、ギター名手でもある}の 2 曲以外は無伴奏ソングまたは家族とのアカペラまたは娘 Maria の無伴奏ソング。ウエーランドの味わい。P16 の歌詞&ソング・ノート等のブックレット付。2004 作。Jo-Sem Recordings)
- *KEVIN KEEGAN:The Music Of Kevin Keegan C
 (1924 年東コルウェイ生まれで米国ツアー中に米国に移住した Aughrim Slopes Ceili Band{1950 年代活躍}のアコ奏者の個人録音やラジオ音源からの貴重録音集。回転が速いんじゃない?と思えるほどの早弾き。全 23ソット。2004 作。Clo Iar-Chonnachta)
- *SEAMUS TANSEY:King Of The Concert Flute B
 (Charlie Lennon がピアノでお付き合いの録音データ不明のかつての Seamus の演奏が 12ソット収録。Seamus の生き生きしたフルート演奏とツボを得た Charlie のピアノの伴奏ということもあろうが、音がえらいいいなあ、と思ったら、「リマスター」と書いてあった。各種ダンスのリズムをきっちり刻みながらも、即興性と気分が反映された飛び跳ねるフルート演奏だ。2004 作。Sound)
- *EOIN DUIGNAN:Lumina D
 (ロー・ホイッスルの為に Eoin が作曲した 6 曲から成る組曲。テーマは宗教的な

- テーマで「誕生、死、復活の魂の旅」とか。w. Gerry O' Beirne {フ・ロテ・ユーサ
-でもある}, Liam O Maonlai {ウ・ォーカ&ピ・ァノ}, Steve Coulter,
Maire Breathnach, Liam Bradley, James Blennerhassett, etc.
2004 作。Duigo Music)
- *PADDY KEENAN・TOMMY O' SULLIVAN:The Long Grazing Acre a
(リアン・パ・イフス巨匠による情感豊かな揺るぎ無い大作。w. Mary
Green, Triona, James Blennerhassett, Greg Sheehan, John
Fitzgerald。Tim O'Brien が推薦文を寄稿。2001 作。Hot Conya)
- *MEMORIES OF IRELAND D
(副題“Songs from the 32 Counties of Ireland”。32 曲入 2 枚組
CD。アイルランド 旅行土産的哀愁のアイルランド 名曲集。2003 作。Wren)
- *MUIRIS O SCANLAIN:Teanam Ort G
(アイルッシュ・ファン必聴! Muiris はアイルランド のデ・イングル出身でオーストラリア在住
のゲ・リック・シンガー。アイルッシュのみならずオーストラリアのトラッド も、またゲ・リック
のみならず英語の唄もうたうが、一聴 Brendan Begley を想わず柔
和なシンギング はゆったりと郷愁漂う主にゲ・リック・トラッド。絶句のアリ
ッシュ。2003 作。DCMS0103)
- *SEAN GARVEY:The Bonny Bunch Of Roses G
(ゲル語と英語のトラッド の収集家でシンガーかつ名ギタリストの S. Garvey の
2 枚目はデビュー作同様彼の誠実さとあたかも伝承歌に蓄積した深
みや愁いが素直に滲み出た緩やかな感動作。彼独特な叙情と年輪
を感じさせる深い味わいは格別。w. Josephine Marsch, Eoghan
Garvey, Liam Lewis, etc. 2003 作。Harry Stottle)
- *FROMSEIER ROSE:Contradiction G
(デンマークの女性ケルティック・フィドルの Ditte Fromseier とユーロ・ジャズ やラテン
音楽に造詣の深い米国人ピアニスト Michael G. Rose とのケルティック・デュオ。
ゲスト: Niamh Parsons。Niamh がウ・ォーカを取る 3 曲“After Aughrim's
Great Disaster”, “Crazy Man Michael”, “Blantyre Explosion”は
息が止まる。ライナー・ノーツ by Morten Alfred Hoirup。2003 作。Nunora)
- *THE RED HAT BAND:Covering Ground B
(CD-R。コークで生まれた Flook の Brian Finnegan&John Joe Kelly がメ
ムバーの一応アイルッシュ・バンド と言えようが、約半数はシンガーの Deirdre
Maynihan の唄をフィーチャーしたアイルッシュな軽快さと土臭さ香る SSW アルバ
ム的で半数は Deirdre のフィドルと Diarmaid Moynihan のリアン・パ・イフス
と Brian のフルートをフィーチャーしたブルターニュの曲を含むセッション曲。2003 作。
Red Hat Music)
- *TOM CUSSEN&TONY HOWLEY
:There's Always Room In Our House B
(ハンズ・オンとサクスのアイルッシュ。Shaskeen なんかで活躍のヴェテラン・ハンズ・オ
ン奏者の Tom と Desi Donnelly との競演等マンチェスター周辺で活動する異
色のサクス奏者の Tony とのな一あんかくすぐったいアイルッシュ。何かコミ
カルでホーム・パーティーっぽいおめでたい音楽。ゲスト: Geraldine Cotter。
2003 作?CHCD1)
- *CAITLIN MAUDE:Caitlin A
(1982 年に若くして亡くなったコネラの異色のゲ・リック・シンガーで詩人の
Caitlin の 76 年作が CD 復刻。すべて無伴奏。彼女の孤高故のどこと

なく孤独感漂う美しいゲールック・ソングの素晴らしさは言葉では言い表せない。心翔ぶ。76/2003 作。Gael-Linn)

- *SEAN O RIADA AGUS CEOLTOIRE CHUALANN
:Ceol Na nUasal (67 作。Gael-Linn) A
- *SEAN O RIADA, SEAN O SE, CEOLTOIRE CHUALANN:Ding Dong A
(67 作。Gael-Linn)
- *CHIEFTAINS:The Bells Of Dublin (91 作。BMG) A
- *CHIEFTAINS:Another Country (92 作。BMG) A
- *CHIEFTAINS:The Celtic Harp (93 作。BMG) A
- *CHIEFTAINS:Live From Dublin A
(副題“A Tribute To Derek Bell”。2005 年。BMG)
- *PADDY MOLONEY・SEAN POTTS:Tin Whistles (73 作。Claddagh) A
- *PADDY MOLONEY:Silent Night A Christmas In Rome a
(99 作。Wicklow)
- *KEVIN CONNEFF:The Week Before Easter (88 作。Claddagh) A
- *MICHAEL TUBRIDY:The Eagle's Whistle (78 作。Claddagh) A
- *DESSIE KELLIHER:Banjoed C
(「やっほー」の掛け声でもかけたくなる多彩なリズム飛び交う楽しい
ハンズオン音楽。w. Mike McGoldrick, Peter Browne, Tony Byrne, Gary
O'Brien, Pdraig O Se, Colin Farrell, etc. 2004 作。
Dessie Kelliher)
- *MEABH O' HARA&CONOR BYRNE:Bavan B
(2000 年の TG4 Young Traditional Musician 賞受賞の女性フルター
Meabh と Christy Moore の甥でフルト奏者の Conor のデュオ。決してその
品評会に走らない共感し合うアイリッシュの変拍子を要所要所に散りば
めた憎い憎いプレイ。見事!。2003 作。O' Hara&Byrne)
- *NOEL LENAGHAN:No Trouble At All B
(ベルファスト出身で長年ゴールウェイで音楽活動をしているフルト奏者でシンガ
ーの爽やかアルバム。フルトをフィーチャーしたインスト曲と歌ものがほぼ半々に
収録された本作はインスト曲では聴き親しんだアイリッシュの名曲等を決し
て慌てず急がずの緩やかな演奏で心を和ませ、トラッドを中心にした
歌もの {ゲールックも 1 曲} ではアイリッシュ〜オールド・タイム〜ブリティッシュ的ニュア
スの広い意味でのフォーク/ルーツ・ミュージックに根ざした肩肘張らぬ素朴で
真摯な唄で心和ませてくれる。2003 作。Long-eared Owl)
- *FALLEN ANGELS:Fallen Angels C
(女性アパロウ 5 人組。ゲールックを含むアイリッシュからスコットランドのマウス・ミュージ
ック、英国トラッド、カナダのかた & Anna に Pete Seeger や Utah Philips 等
のアメリカン・フォークそして“Over the Rainbow”等を 5 人の声と合唱等で
美しく聴かせる。全 14 曲。92 作。Magnetic Music)
- *MAIRTIN O' CONNOR:Rain Of Night a
(アコ魔術師 M. O' Connor の本作はアイリッシュの小技大技を駆使した空想
的なアコ音楽。名人芸。2003 作。Mairtin O' Connor)
- *MARINA MEYLER:Champion Of Ireland "Banjo" ¥2180
(ハンズオン・チャンネルによる模範演奏集。2003 作。Connoisseur)
- *GAELIC ROOTS D
(ボストン大学での録音集。2 枚組。Liz Carroll, Paddy Keenan, Seamus

Egan, John Williams, Cathal Hayden, Natalie MacMaster, Tony Cuffe, Jackie Daly, Maire O'Keefe, Daithi Sproule, James Kelly, Johnny O'Leary, Joe Derrane, Robbie Hanna, Gerry O'Connor, Jerry O'Sullivan, Eileen Ivers, James Keane, Buddy MacMaster and more! 97 作。Kells)

- *A WOMAN'S HEART "A Decade On" B
(Sinead O'Connor, The Corrs&Chieftains, Marcia Howard&Mary Black, Frances Black, Sinead Lohan, Eva Cassidy, Maighread&Triona, Cara Dillon, Mary Black, Juliet Turner, Sharon Shannon &The Wild Bullocks, Cathie Ryan, Dolores Keane・Tommy Sands・Vedran Smailovic, Eleanor McEvoy, Dolly Parton with Altan, Mary Coughlan&The Cafe Orchestra, Maura O'Connell, Alison Krauss による全 18 曲。2002 作。Dara)
- *PACKIE BYRNE: Donegal&Back B
(トニール出身のむしろ英国で著名なトラッド・シンガーでピツル奏者の Cecil Sharp House 等英国での録音。収録年は 64、74、75、76 年。"The Shore of Lough Erne", "Rambling Irishman" 等全 22 曲。温厚な柔らかいシンギングは親しみやすい。2002 作。英 Veteran)
- *IRISH FAVOURITES ¥1380
(Tony MacMahon, Frankie Gavin&Charlie Lennon, Kevin&Seamus Glackin, Mairead Ni Mhaonaigh&Frankie Kennedy, P. J. Marcus Hernon and more。全 16 曲。2001 作。Forever Gold)
- *IRISH SESSIONS ¥1380
(De Dannan, Clannad, Brian Hughes, Mary Black&General Humbert, Dolores Keane, Paddy Glackin, Paul Brock&The Moving Cloud and more。全 18 曲。2001 作。Forever Gold)
- *NIALL KEEGAN: Don't Touch The Elk B
(フルートソロ。選曲はケリー・バンド在籍時やセッションで覚えた数々のアイリッシュに加え Andy Cutting {2 曲}, Emile Benoit {ニューファンドランド}, Serge Desauy {フランス} 等だが、ジャズ of フリー・フォームな即興性とスウィング感をキープしたアイリッシュ・ダンス音楽とでも表現できる音楽。w. Micheal O Suilleabhain, Verena Cummins, Chris Kelly, Sandra Joyce。99 作。Elk)
- *IRISH FOLK FAVOURITE ¥2880
(お買い得の 4 CD セット。Kilfenora Ceili Band {34 曲!}, Mick Moloney {16 曲}, Sweeney's Men {13 曲}, Finbar&Eddie Furey {14 曲}, Dubliners {13 曲}, Grehan Sisters {11 曲}。98 作。Castle)
- *EIGSE DHIARMUIDIN B
(シンガーでジャーナリストだった故 Diarmuid O Suilleabhain を偲んで毎年開かれているコンサートのライヴ。Maighread Triona&Micheal O Domhnaill {3 人兄妹唄う "An Saighdiuir Treigthe" に涙...}, Kevin Grackin Paddy Grackin&Micheal O Domhnaill, Mary MacNamara, Connie O'Connell Hammy Hamilton&Tom Stephens, Seamus Begley&Jim Murray, Peadar O Riada Eamonn McGivney &John Kelly, Noel Shine&Mary Green, John&Pip Murphy, Sean O Liathain, Maeve Donnelly, Voice Squad and more。アイリッシュ真髓

- ライヴ。全 17 曲。詳細解説付。2001 作。Clo Iar-Chonnachta)
- *THE ALIAS ACOUSTIC BAND:1798—1998 Irish Songs Of
Rebellion, Resistance&Reconciliation D
(2 枚組 CD。全 37 曲。98 作。Proper)
- *JOSEPHINE MARSCH BAND:I Can Hear You Smiling A
(名実と共にアイルランドを代表する女性アコ奏者 Josephine の本作は Sharon Shannon 級のアイリッシュ的素晴らしさ。アイリッシュの心溢れる傑作。2001 作。J. Marsh Band)
- *NOEL SHINE&MARY GREENE:Unspoken Lines C
(アイルランドで信望の厚い男女フォークデュオ。Mary Black のヒットで有名な Mary Greene 作“Wrap You Up”を含む最新作は唄の本来の温もりや肌触りがそのままナチュラル・ハックされた心に深く残るもの。穏やかな風のようにゆったりとした Mary のヴォーカルはどれも心からのもの。w. Mairtin O' Connor, Declan Sinnott, John Spillane, Pat Crawley, etc. 2001 作。Tigerdog)
- *CHRISTY MOORE:The Box Set 1964-2004 ¥4580
(多数の未発表&貴重音源含む 101 曲収録 6 枚組。2004 作。Columbia)
- *CHRISTY MOORE:Unfinished Revolution (WEA) ¥1780
- *CHRISTY MOORE:King Puck (93 作。Grapevine) B
- *CHRISTY MOORE, DONAL LUNNY&JIMMY FAULKNER
:Live In Dublin (78 作。Tara) A
- *CHRISTY MOORE:Ride On (84 作。Warner) ¥1780
- *CHRISTY MOORE:Ordinary Man (85 作。Warner) ¥1780
- *CHRISTY MOORE:Voyage (89 作。WEA) ¥1780
- *SKARA BRAE:Skara Brae (71 作。Gael Linn) B
- *PLANXTY:Planxty (73 作。Shanachie) a
- *PLANXTY:The Well Below The Valley (73 作。Shanachie) a
- *PLANXTY:Cold Blow And The Rainy Night (74 作。Shanachie) a
- *PLANXTY:Words&Music (83 作。Shanachie) a
- *RELATIVITY:Gathering Pace a
(Michael O Domhnaill, Triona Ni Dhomhnaill, John&Phil Cunningham による Relativity の 87 年作。Compass)
- *PATRICK STREET:Compendium a
("The Best Of Patrick Street"。全 14 トラック。2000 作。Green Linnet)
- *THE SEVILLE SUITE B
(Bill Whelan, Andy Irvine, Liam O' Flynn, Donal Lunny, Nollaig Casey。92 作。Tara)
- *AINE FUREY:Sweet Summer Rain A
(アイリッシュ・トラッド・ファンよりブリティッシュ・フォーク・ファンあるいはかすかにケルトの雰囲気薫る女性シンガー・ファンにお勧めのたおやかな女性シンガーのデビュー作。Finber Furey の娘さん。Aine のヴォーカルはケルティックな桃源郷的音作りとともに肌と心に優しい…。Aine は Sandy Denny と Anne Briggs のファン。99 作。Celtic Connections)
- *CRAOBH RUA:If Ida Been Here, Ida Been There A
(ベルファストの 4 人組の 4 枚目。2000 作。Lochshore)
- *THE ABBEY CEILI BAND:Beal a' Ghleanna (2002 作。Glanlea) A

- *THE BOFIELD CEILI BAND:100 Years A Growing A
 (メイヨーのボフィールドの100年の歴史を持つケリー・バンドの結成100周年記念アルバム。Produced by Peter Browne。2000作。Hummingbird)
- *MARINA CASSIDY:Listen A
 (女性クラシック・ハープ奏者でシンガーのM. CassidyによるCarolan 3曲を含むアイルッシュ・ソング&メロデーを中心にした心休まる音楽。ティー・タイム向きかしらん?全19曲。98作。Harpbeat)
- *JOHN REGAN:Let Down The Blade A
 (数々のケリー・バンドやセッションでの百戦練磨のアコ奏者J. Reganによるリズム感バッチリのパワフルなアコースティオン・アルバム。w. Paddy Glackin&Mary Corcoran。全19曲。99作。自主制作)
- *PHIL CALLERY:From The Edge Of Memory A
 (Voice SquadのP. Calleryのソロ。アイルッシュというよりフレンチッシュ的気品とリズム漂うシンキングで、気持ちよく酔わせる。w. Liam O'Maonlai, Brian Kennedy, Steve Cooney, Dermot Byrne, Frankie Lane, etc. 99作。Tara)
- *CARMINA:Weather In The Heart B
 (ご存知 Donal Lunnyプロデュースによるコンテンポラリーな女性SSWアルバム。シルキーなアイルッシュ・サウンドとジャズ的なサウンドとがミックス。Carminaのヴォーカルはジャンルを超えた魅力がある。w. D. Lunny, John McSherry, Laoise Kelly, etc. 98作。Rhiannon)
- *MARY STAUNTON:Bright Early Mornings B
 (メイヨー出身のアコ奏者であり優れたトラッド・シンガーだ。13曲中5曲でのヴォーカルはDolores Keaneっぽい。w. Sharon Shannon, Alec Finn, Frankie Lane, Steve Cooney, Matt Crannitch, etc. 98作。Fuschia Music)
- *ARCADY:After The Ball(ヴォーカル:Frances Black。91作。Dara) B
- *ARCADY:Many Happy Returns B
 (ヴォーカル:Niamh Parsons。96作。Dara)
- *SKIRM&DEZI DONNELLY>Welcome C
 (副題"Live in Hamburg"。95作。トイムagnetic)
- *JOHNNY DUHAN:Family Album(90作。1st。Round Tower) B
- *JOHNNY DUHAN:Just Another Town(2nd。Bell) C
- *JOHNNY DUHAN:Don Quixote(3rd。Bell) C

[CD/クレア地方の音楽]

- *MARY MacNAMARA:Traditional Music From East Clare A
 (w. Martin Hayes, PJ Hayes, Seamus Quinn。94作。Claddagh)
- *MARY MacNAMARA・ANDREW MacNAMARA:Open Hearth(MAC001) B
- *THE LAHAWNS:Live At Winkles B
 (Andrew McNamara, Breda Smith, Jimmy Higgins, Jim Corry, Kevin HoughのLahawnsのライヴ。97作。Lahawns Music)
- *MARY CUSTY・EOIN O'NEILL:The Ways Of The World D
 (w. Kevin Griffin, Steve Wickham, Davy Spillane, Tommy Hayes 他。1991作。Celtic Music)
- *SOCKS IN THE FRYING PAN:Socks In The Frying Pan B
 (「フライパンの靴下」を名乗る野郎三人=Shane Hayes[アコ]、Fiachra

Hayes {フイドル}、Aodan Coyne {ギター、ヴォーカル} = の変化球多数、変幻自在なアイリッシュの、何とも楽しいこと。おどけた音楽は凄技多数の滅茶苦茶凄い演奏。アコが、フイドルが、ギターが躍りまくる。彼らはクアのグループだが、音楽を聴く限りでは、クアの伝統音楽風ではない。オール・アイルランド的ダンス音楽を材料にフライパンで料理して遊んで楽しむ風。そんなダンス曲の合間に Aodan の見事な唄が入る。この Aodan のシンキングが嘘みたいにかいとして素晴らしい。お笑いと言真面目とが同居した得した気分のアルバムだ。飛び跳ねる演奏は並じゃない！2013 作。Socks In The Frying Pan)

*IRISH TRADITIONAL CONCERTINA STYLES

- Twelve Great Players From the 1970s (74 作。Free Reed) B

*TONY MacMAHON: Tony MacMAHON A

(ご存知、クアのミルトン・マルベイ出身で初代 Bothy Band のメンバーでもあった名アコ奏者の T. MacMahon の 72 年のデビュー作。72 作。Gael-Linn)

*TONY MACMAHON: MacMahon From Clare A

(T. MacMahon の 2 枚目。共演者は Joe Cooley, Seamus Connolly, James Kelly, Barney McKenna, Peadar Mercier, Liam O' Maonlai。2000 作。MacMahon)

*HELEN HAYES: Today, Tomorrow & On Sunday B

(Martin Hayes の妹さんでトラッド・シンガーの Helen Hayes のトラッド・シンキング・アルバム。終始、Martin Hayes & Dennis Cahill が空気のような演奏で、Helen の唄たちを優しく包んでいる。w. Martin Hayes & Dennis Cahill, John Williams。2008 作。Helen Hayes)

*PADDY MURPHY: In Good Hands B

(クアのコンサーティナ音楽の歴史的名盤。オール・アイルランドの第一回目のチャンピオンでアイリッシュ・コンサーティナをクアで広めたコンサーティナ名人 P. Murphy {1913~1992} の 1958 年から 1980 年代の音源 {自宅やハブ等で収録} からの 28トラック。Produced by Peadar O'Loughlin & Gearoid O hAllmhurain。2007 作。Celtic Crossing)

*GEAROID O hALLMHARAIN

: Traditional Music From Clare And Beyond B

(コンサーティナ奏者でクア音楽研究者の Gearoid 氏によるクア音楽の名盤。ゲスト: Peter O'Loughlin, Martin Hayes, Paddy Canny, Janet Harbison, etc. P20 のブックレット付。96 作。Celtic Crossings)

*GEAROID O hALLMHARAIN & PATRICK OURCEAU: Tracin' B

(back in stock。副題 "Traditional Music From The West Of Ireland"。99 作。Celtic Crossings)

*LAUREL MARTIN: The Groves a

(アイルランドの伝統音楽の CD 付楽譜 "Forget Me Not" の編纂者 {クア出身のフイドル奏者 Seamus Connolly との共著} で米国人女性アイリッシュ・フイドルの Laurel の本デビュー作はクアのフイドル・ミュージックと伝統的アイリッシュ・フイドル・ミュージックの最良の部分をデリケートに保持し静かな名作。2006 作。Laurel Martin)

*DAN POSSUMATO: Land Of Sunshine A

(セント・パトリックス・デイが誕生日の米国ピッツバーグ出身だが、音楽はクアの空気たっぷり。本作はハブや自宅で好きな音楽仲間とセッションして

- 楽しむタイプの音楽で大半はバンド又はギターとのセッションを軸に進行して行く。セッション相手は Jerry Mulvihill {バンド}, Quentin Cooper {バンド、ギター他}, Allan Wallace {ギター} のクアのトップ・プレイヤー達。クアの空気たっぷりのアイリッシュだ。2006 作。Dan Possumoto)
- *RONAN BROWN AND PETER O' LOUGHLIN: The South West Wind B
(副題 "Traditional Music From County Clare". Claddagh)
- *PADRAIG RYNNE: Bye A While C
(クアからスキップ気分デビューの鮮やかなコンサーター・ミュージック。w. Tola Custy, Arty McGlynn, John Jo Kelly, John&Paul McSherry, Mirella Murray, Kevin Dorris, Donal O' Connor, Pdraig Rynne)
- *TURLOUGHMORE GEILI BAND: Seven Streams C
(ご存知 Denis Liddy 氏率いる女性と男性が半々の 10 名のクアで人気のケリー・バンドの 2 枚目。2005 作。Tig Na Coille)
- *TOMMY PEOPLES: The Iron Man a
(with Daithi Sproule. 76 作。Shanachie)
- *TOMMY PEOPLES&PAUL BRADY: The High Part Of The Road a
(76 作。Shanachie)
- *TOMMY PEOPLES: Waiting For A Call a
(約 20 年振りに目の目を見た Alec Finn デュオの 85 年頃録音の本作は Alec が即興的にサートした清々しいアイリッシュ・フォーク・ミュージック。ゲスト: Donal Lunny, Sean Potts. 2003 作。Shanachie)
- *THE KILFENORA GEILI BAND: Live In Lisdoonvarna B
(熱狂的ライブ。バンドの本体は 1870 年に創設された鼓笛隊だったので、バンドの歴史が P7 にわたって綴られている。2002 作。Dolphin)
- *PEGGY McMAHON: The Parting Way Of Time D
(副題 "Traditional Singing From West Clare". 伝統音楽に囲まれて育った Peggy ばあさんの無伴奏民謡集。お父さんやおばあさん、それに友達から習った唄を耳元で唄い聴かせるように優しくまた生き生きとシンキングする。全 14 曲。P12 のブックレット付)
- *JOHNNY McCARTHY: Solo Run B
(副題 "Traditional Music From The Capital Of Clare". w. Alph Duggan. 2002 作。Twin)
- *MICHÓ RUSSELL
: Traditional Irish Music From County Clare C
(CD-R. 76 作。Celtic Music. 正規盤)
- *SHASKEEN: Atlantic Breeze B
("Traditional Irish Music&Song". Faoileann)
- *SHASKEEN: 25th Silver Jubilee Collection B
(全 22 曲入。95 作。G. T. D. Heritage)
- *SEAMUS WALSH: Clare Accordion B
(w. Mark Kelly, Brendan Larrisey, Jimmy Higgins, Tommy Hayes, etc. Ceol Music)
- *RE-JOYCE "Tunes And Songs From The Joyce Collection" B
(1909 年にリリック出身の P. W. Joyce によって編纂された "Old Irish Folk Music And Songs" からの選曲。Jackie Daly, Maire O' Keefe, John Faulkner, Donal O' Connor の 4 名グループによるダンス曲と唄の

数々はアイリッシュのコアの味わいそのもの。リムリック周辺の古きアイリッシュが今蘇る。2003 作。Rejoyce)

[CD/IRELAND, SCOTLAND 他]

- *SHANTALLA: Shantalla C
(Helen Flaherty をヴォーカルに据えたアイリッシュ&スコティッシュ・バンドのデビュー作。デビュー作にて既に偉大。ロングセラー中。Wild Boar Music)
- *TELYN Y CELT - TRAD HARPS C
(Wales, Ireland, Scotland, Bretagne のケルト圏のハープ奏者の編集 CD。収録順に Corrina Hewat, Laoise Kelly, Meinir Heulyn, Sileas, Gwenael Kerleo, Crasdant, Maire Ni Chathasaigh&Chris Newman, Delyth Jenkins, Cormac De Barra, Dominig Bouchaud, Robin Huw Bowen, Wendy Stewart, Alison Kinnaird, Rhys Ganol, Gwenola Ropars, Grainne Yeats, Ar Log, Cormac De Barra with Anne-Marie O'Farrell。2004 作。Sain)
- *DIAMOND MOUNTAIN SESSIONS PRESENTS... ¥1000
(featuring Natalie Merchant, Steve Earle, The Waifs, Declan O'Rourke, Pauline Scanlon, Ger Wolfe, Sharon Shannon, Rosey, Damien Dempsey, Sinead O'Connor, Siobhan Parr, Mundy, Mary Shannon {収録順}。全 13トラック。2004 作。Daisy)
- *CELTIC JOURNEY "Gentle Breeze" ¥1480
(Kevin Crawford, Joanie Madden, Matt Molloy&Sean Keane, Seamus Egan, Joe Burke, Kornog, Frankie Kennedy&Mairead Ni Mhaonaigh, Jack Coen, Deanta, Jerry O'Sullivan。全 13 曲。99 作。Eureka)